



令和元年度全国スポーツ少年団 リーダー連絡会報告書



公益財団法人

日本スポーツ協会

目 次

1. リーダー連絡会開催要項	1
2. リーダー連絡会日程表	3
3. 参加概要	4
4. スタッフ名簿	5
5. 情報提供・講義資料	6
6. 全体発表会資料	14
7. 情報交換会資料	32
8. 講師講評	53
9. 参加者アンケート結果（リーダー代表者、育成担当指導者）	56

令和元年度全国スポーツ少年団リーダー連絡会 開催要項

1. 趣旨

全国の都道府県スポーツ少年団リーダーの相互研修および情報交換を通じ、リーダーの資質向上と各都道府県リーダー会および全国的ネットワークの充実・強化を目指し、各都道府県スポーツ少年団リーダー代表による全国会議を開催する。

2. 主催

公益財団法人日本スポーツ協会 日本スポーツ少年団

3. 後援（予定）

スポーツ庁

4. 期日

令和元年 6 月 15 日(土)～6 月 16 日(日) 1 泊 2 日

5. 会場

<1 日目>国立オリンピック記念青少年総合センター

〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町 3-1 TEL : 03-3467-7201

<2 日目>東京ガーデンテラス紀尾井町 紀尾井カンファレンス

〒102-0094 東京都千代田区紀尾井町 1 番 4 号

東京ガーデンテラス紀尾井町 紀尾井タワー 4 階 TEL : 03-3246-1111

※ 会場への荷物の送付および電話連絡は一切禁止する。

6. 参加条件・人数

○リーダー代表者(1 名)

以下(1)または(2)の参加条件を満たす者。

(1) 令和元年度スポーツ少年団登録を行い、義務教育を修了したシニア・リーダー資格保有者で、都道府県リーダー会会長である者。

※ 都道府県リーダー会会長が参加できない場合は、それに代わる者でも参加可能。

※ シニア・リーダー資格を保有していない場合は、ジュニア・リーダー資格保有者でも参加可能。

(2) リーダー会未設置の場合は、令和元年度スポーツ少年団登録を行い、義務教育を修了したシニア・リーダー資格保有者で、リーダーの中核として活動し、将来リーダー会の中心として活躍が期待される者。

※ シニア・リーダー資格を保有していない場合は、ジュニア・リーダー資格保有者でも参加可能。

○育成担当指導者(1 名)

令和元年度スポーツ少年団指導者または役職員登録をしている者で、都道府県リーダー会において指導的立場にある者、またはジュニア・リーダースクール講師・運営担当者(2019 年 4 月 1 日現在)。

7. 内容

<1 日目>

- ・ 情報提供・講義
- ・ 全体発表会：ブロック研究大会ポスター発表
- ・ 情報交換会：ワールドカフェ方式
- ・ ブロック別連絡会

<2 日目> (※第 2 回ジュニアスポーツフォーラムのプログラムに参加)

- ・ 特別講演 「ジュニアスポーツからみたスポーツ少年団」
 演者：萩原 美樹子 (バスケットボール U-16、U-18、U-19 女子日本代表ヘッドコーチ／
 日本スポーツ少年団副本部長)
- ・ 分科会 (パネルディスカッション)
 - A：ジュニア期におけるスポーツとの多様なかかわり方
 - B：子どもたちのスポーツ指導現場に動きの質の観点や評価を導入する意義
 - C：地域におけるスポーツ少年団の役割
 - D：スポーツチーム・クラブ運営におけるガバナンスの構築

8. 参加申込

都道府県スポーツ少年団は推薦者および提出書類を取りまとめ、下記により申し込むこと。

(1) 申 込 先：〒150-8050 東京都渋谷区神南 1-1-1 岸記念体育会館内
公益財団法人日本スポーツ協会 日本スポーツ少年団

(2) 申込期限：令和元年 5 月 17 日(金)

(3) 提出書類：申込書

※ 申し込みいただいた時点で参加者として決定します。参加者へは 6 月上旬に開催にあたっての事務連絡および事前資料を送付します。

※ 全体会発表担当道県のデータ提出は 5 月 24 日(金)まで。

※ 2 日目に第 2 回ジュニアスポーツフォーラムに参加するため、希望分科会を記入してください(別添要項参照)。なお、希望分科会の指定はありません。

9. 経費

(1) 参 加 料：無料

(2) 交 通 費：当協会が定める旅費規程に基づき補助する。

また、支給方法は所属都道府県スポーツ少年団の指定口座への振り込みとする。なお、2 日目の会場には、2 日目(6/16)の朝に各自公共交通機関で移動する。

(3) 宿泊費等：期間中の食事代を含む宿泊費および必要な教材は、日本スポーツ少年団が負担または用意する。

10. その他

(1) 参加者は筆記用具およびリーダー会や討論テーマに関する資料を持参すること。

(2) 都道府県内で全体討論会のテーマについて活動状況、課題、考えられる策等を議論し、現状把握および意見の集約を行った上で参加すること。

(3) 都道府県の代表としてふさわしい服装で参加すること。

(4) 参加申込にあたって収集した個人情報参加可否の通知・関連資料の送付・参加者名簿作成を目的に使用します。また、本連絡会中に撮影した写真等については、公益財団法人日本スポーツ協会のホームページや報告書および東京 2020 組織委員会への報告等において利用することがあります。なお、この個人情報は、参加者の同意なしに、第三者に開示・提供することはありません(法令などにより開示を求められた場合を除く)。

11. 日本スポーツ協会公認スポーツ指導者資格の更新研修

本連絡会の参加により、日本スポーツ協会公認スポーツ指導者資格の更新研修を修了したことになります。なお、テニス資格は 2 ポイント、バウンドテニス資格は 1 ポイント、チアリーディング(コーチ 3 のみ)資格は都道府県体育・スポーツ協会実施の 1 回分の実績となりますが、別途、資格毎に定められたポイント獲得や研修受講などの要件を満たす必要があります。

ただし、次の資格については、更新研修を修了したことにはなりません。(2019 年 4 月 1 日現在)

水泳、サッカー、スノーボード、バスケットボール、バドミントン、剣道、空手道、エアロビック(コーチ 4 のみ)、スクーバ・ダイビング、プロゴルフ、プロテニス、プロスキー、スポーツドクター、スポーツデンティスト、アスレティックトレーナー、スポーツ栄養士、クラブマネジャー

詳細は日本スポーツ協会のホームページをご確認ください。

令和元年度全国スポーツ少年団リーダー連絡会 日程表

6月15日(土)	
12:00	受付
12:15	
12:45	開会式・オリエンテーション
13:55	情報提供・講義
14:05	休憩(10min)
15:45	全体発表会 (ブロック研究大会ポスター発表)
15:55	休憩
17:45	「これからのスポーツ少年団のあるべき姿～東京 2020大会後を見据えて～」に関する 情報交換会
19:00	入室(シーツ・カギ配付)・夕食
20:00	ブロック別連絡会
20:30	閉会式
	入浴・就寝準備・消灯

6月16日(日)	
6:30	シーツ返却(6:30～7:00)・清掃
7:00	朝食／カギ返却(～8:00迄)
8:00	
9:00	各自移動(→会場)・受付
10:00	
10:30	
11:30	
12:30	第2回ジュニアスポーツフォーラム
15:00	
15:15	
16:00	

- 受付・開会式・オリエンテーション
・センター棟501号室
- 情報提供・講義
・センター棟501号室
- 全体発表会
- 情報交換会
- 閉会式
・センター棟501号室
- ブロック別連絡会
・センター棟501・504・505・507・509号室
- 講師・事務局控室
・センター棟小研修室5A

令和元年度全国スポーツ少年団リーダー連絡会 参加概要

県No	都道府県	リーダー	育成担当指導者	オブザーバー
		氏名	氏名	氏名
1	北海道	○	○	
2	青森県	×	×	
3	岩手県	×	×	
4	宮城県	○	○	○
5	秋田県	○	○	
6	山形県	○	○	
7	福島県	○	○	
8	茨城県	○	○	
9	栃木県	○	○	
10	群馬県	○	○	
11	埼玉県	○	○	
12	千葉県	○	○	
13	東京都	○	○	
14	神奈川県	○	○	
15	山梨県	○	○	
16	長野県	○	○	
17	新潟県	×	○	
18	富山県	○	○	
19	石川県	○	○	
20	福井県	○	○	
21	静岡県	○	○	
22	愛知県	○	○	
23	三重県	○	○	
24	岐阜県	○	○	
25	滋賀県	○	○	
26	京都府	○	○	
27	大阪府	×	○	
28	兵庫県	○	○	
29	奈良県	×	×	
30	和歌山県	○	○	
31	鳥取県	×	×	
32	島根県	○	○	
33	岡山県	○	○	
34	広島県	○	○	
35	山口県	○	○	
36	香川県	○	○	
37	徳島県	○	○	○
〃	〃			○
〃	〃			○
〃	〃			○
38	愛媛県	○	○	
39	高知県	×	×	
40	福岡県	○	○	
41	佐賀県	○	○	
42	長崎県	○	○	
43	熊本県	○	○	
44	大分県	○	○	
45	宮崎県	○	○	
46	鹿児島県	○	○	
47	沖縄県	○	○	

※○：参加 ×：不参加

<参加者数>

	リーダー	育成担当指導者	オブザーバー
男	23名	26名	2名
女	17名	16名	3名
計	40名	42名	5名

参加者数合計：87名（オブザーバー5名含む）

令和元年度全国スポーツ少年団リーダー連絡会 スタッフ名簿

○講師

氏名	所属	役職
吉田 繁敬	アイ・プラス株式会社	・リーダー養成ワーキンググループ班長 ・幼児期からのアクティブ・チャイルド・プログラム 普及ワーキンググループ班員
祝原 豊	静岡大学	・リーダー養成ワーキンググループ班員
辻川 比呂斗	順天堂大学	・リーダー養成ワーキンググループ班員 ・スポーツ少年団運動適性テスト検討ワーキング グループ班員

○事務局

氏名	所属
青田 慎太郎	公益財団法人日本スポーツ協会 地域スポーツ推進部少年団課
田中 智也	
石田 翔太郎	

2019年6月15日（土）
全国スポーツ少年団リーダー連絡会 情報提供

今後のスポーツ少年団指導者に関する諸規程の改定
および
日本スポーツ少年団リーダー制度の改定について

公益財団法人日本スポーツ協会
日 本 ス ポ ー ツ 少 年 団

Copyright © 2019 Japan Sports Clubs Association

1

情報提供の流れ

1. 今後のスポーツ少年団指導者に関する諸規程の改定に至る背景

2. スタートコーチ（スポーツ少年団）の養成

3. 日本スポーツ少年団リーダー制度の改定について

令和元年度全国リーダー連絡会 情報提供

Copyright © 2019 Japan Sports Clubs Association

2

1. 今後のスポーツ少年団指導者に関する諸規程の改定に至る背景

【スポーツ少年団に求められている役割や期待】

➢ 地域社会において、「スポーツで人々をつなぎ、地域づくりに貢献する」存在となること
➢ 「スポーツ基本計画」や「運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」等、国の施策にスポーツ少年団の名称が明記されており、それらの期待に積極的に対応すること
➢ 自発的にスポーツを選んでくれた子どもたちに対し、責任を果たすこと

スポーツ少年団で指導をすること＝社会的な役割を果たすこと

※詳細：配布資料「スポーツ少年団指導者に関する制度等の改定について」を参照

令和元年度全国リーダー連絡会 情報提供

Copyright © 2019 Japan Sports Clubs Association

3

1. 今後のスポーツ少年団指導者に関する諸規定の改定に至る背景

【これからのスポーツ少年団指導者】

➢ 2020年度より、スポーツ少年団有資格指導者を、日本スポーツ協会公認スポーツ指導者制度に基づく**スタートコーチ（スポーツ少年団）**として養成
➢ 日本スポーツ協会公認スポーツ指導者資格保有者は、4年間に一度、資格更新研修を受講する必要があり、**常に学び続ける指導者**である。

	これまでスポーツ少年団が 養成してきた指導者	これからスポーツ少年団が 養成する指導者
名称	スポーツ少年団認定員	スタートコーチ（スポーツ少年団）
資格の 位置付け	スポーツ少年団が独自に定める 資格	日本スポーツ協会公認スポーツ指導者制度に 位置付けられる
再学習の 機会	永年資格のため、再学習の必要 はない	4年間に一度、資格更新のための研修を 受講する必要がある

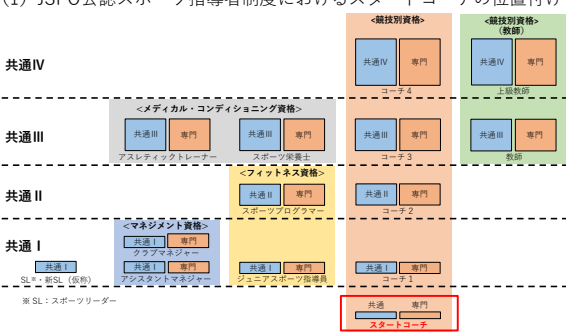
令和元年度全国リーダー連絡会 情報提供

Copyright © 2019 Japan Sports Clubs Association

4

2. スタートコーチ（スポーツ少年団）の養成

(1) JSPO公認スポーツ指導者制度におけるスタートコーチの位置付け



※ SL：スポーツリーダー

令和元年度全国リーダー連絡会 情報提供

Copyright © 2019 Japan Sports Clubs Association

5

2. スタートコーチ（スポーツ少年団）の養成

(2) スタートコーチ（スポーツ少年団）養成カリキュラム〔専門科目〕

1. スポーツ少年団の理念と意義
(1) スポーツ少年団の理念・意義
(2) 日本スポーツ少年団指導者綱領・団員綱領
2. ジュニア期のスポーツ指導
(1) 発育・発達に合わせた指導
(2) 幼児期からのアクティブ・チャイルド・プログラム（ACP）※
(3) 運動適性テスト※
3. 安全・安心なスポーツ環境の整備
(1) リスク管理
(2) 反倫理的行為の根絶

学習時間：自宅学習が8時間以上、集合講習が7時間以上の**計15時間以上**

※ 幼児期からのACP及び運動適性テストは座学として実施し、単位団活動において幼児期からのACP、運動適性テストを取り入れる意義等を学習する。

令和元年度全国リーダー連絡会 情報提供

Copyright © 2019 Japan Sports Clubs Association

6

3. 日本スポーツ少年団リーダー制度の改定について

(1) 日本スポーツ少年団リーダー制度

- 【リーダー制度概要】※詳細は別紙「日本スポーツ少年団リーダー制度」参照
- ・ 制度目的： スポーツ少年団における青少年リーダーを組織的に整備
日常の活動を通じ個々の資質と技能の向上をはかり、**将来のスポーツ少年団指導者を育成**する
 - ・ 受講年齢： 1. ジュニア・リーダー
小学校5年生以上中学生までの者
2. シニア・リーダー
義務教育を終了した **20歳未満**の者。
 - ・ 学習時間数： 1. ジュニア・リーダー
リーダー制度に定めるプログラム内容を含む20 時間以上。
2. シニア・リーダー
リーダー制度に定めるプログラム内容を含む**40 時間以上。**
 - ・ その他： シニア・リーダーが日本スポーツ少年団指導者制度に定める要件
を満たした場合、**「スポーツ少年団認定員」**へ資格移行する。



3. 日本スポーツ少年団リーダー制度の改定について

(2) 日本スポーツ少年団リーダー制度の改定

【課題】

- スポーツ少年団活動と中学校・高校部活動の両立の困難
- 進学や就職をきっかけに、活動地域を離れてしまうことによるリーダー活動の停滞

【日本スポーツ少年団リーダー制度の改定に係る検討事項】

- シニア・リーダーから**「スタートコーチ（スポーツ少年団）」**への資格移行
- リーダーに求められる役割や望ましいリーダー像の整理
- シニア・リーダースクール カリキュラムの検討
- 継続的にリーダー活動に取り組み、将来指導者としてスポーツ少年団活動に取り
組める環境の整備



令和元年度 全国リーダー連絡会

「これからのスポーツ少年団のあるべき姿
～東京2020大会後を見据えて～」

アイ・プラス株式会社 代表取締役
日本スポーツ少年団 リーダー養成WG班長
幼児期からのACP普及WG班員
吉田 繁敬(よしだしげよし)

●1964年のレガシー
～スポーツ少年団は1964年東京オリンピック大会を契機に誕生～

- ・1960年5月：青少年に対するオリンピック啓発運動
推進のための結成設置（JOC総合）
- ・1960年5月：オリンピック青少年運動の推進
（日本体育協会）
- ・1960年6月：オリンピック青少年運動推進世話人会
→オリンピック青少年運動推進懇談会
12月：オリンピック青少年運動推進準備委員会
（日本体育協会）
- ・1960年6月：スポーツ少年団結成準備
（日本体育協会）
- ・1961年12月：スポーツ少年団の創設を承認
- ・1962年6月：スポーツ少年団の創設

スポーツ少年団は1964年東京オリンピック大会開催を前に、青少年に対してオリンピックへの関心を高めることを目的とした「オリンピック青少年運動」の一環として誕生しました。
「オリンピック青少年運動」を推進する世話人は日本体育協会、文部省、高野連、中体連、小体連、東京部、オリンピック距離委員会、宇城経略者等のメンバーにて構成されていました。

●1964年とスポーツ少年団
～スポーツ少年団は1964年東京オリンピック大会の成功に貢献～

オリンピックデーのイベントとして国旗を持ち
行進する団員
(参加時写真1964)

聖火リレーに参加した団員
(日本スポーツ少年団も参加団員 伊波)

聖火を運ぶ団員
(日本スポーツ少年団も参加団員 伊波)

国立競技場での国旗掲揚練習
(日本スポーツ少年団も参加団員 伊波)

1964年東京オリンピック大会開催を機に結成されたスポーツ少年団は大会の機運盛り上げ、大会の成功に貢献しました。聖火リレーや開会式での国旗掲揚、大会期間中の各競技場での大会旗や参加国国旗の掲揚等延べ1万3千人以上の団員が大会に参画したとされています。

オリンピックが大切にしている考え方
(オリンピズム)

体・心・頭のバランスが
とれた人間を育てる

国の枠を越えた交流で
平和な社会を築く

オリンピックとは、この考え方を
実現するための活動
オリンピック・ムーブメント

オリンピックとパラリンピックとは、スポーツ選手や
スポーツに興味をもつ人たちが関わるものではなく

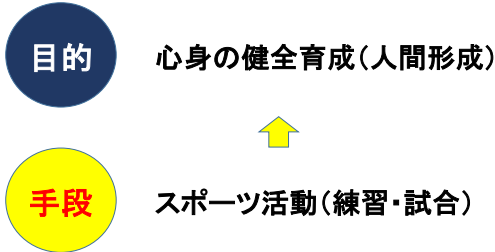
理念に共感する人たちが
協力して一緒につくっていくもの

「オリンピズム」と「スポーツ少年団理念」

【オリンピズム】
「スポーツを通して心身を向上させ、さらには文化・国籍など
様々な差異を超え、友情、連帯感、フェアプレーの精神をもって
理解し合うことで、平和でよりよい世界の実現に貢献する」
(ピエール・ド・クーベルタン)

【スポーツ少年団理念】
・一人でも多くの青少年にスポーツの歓びを提供する
・スポーツを通して青少年のこころとからだを育てる
・スポーツで人々をつなぎ、地域づくりに貢献する

「目的」と「手段」



スポーツ少年団の現状と課題

・スポーツの厳しさや苦しさが際だった指導

競技化が進み、活動種目が単一化
→勝つことだけを求め、不適切な指導



燃え尽き症候群
運動嫌いの子どもたち

スポーツ少年団の現状と課題

・単位スポーツ少年団活動の目安

1日あたり2～3時間程度
1週間に2～3日
→身体的、精神的に過度な負担がなく、意欲
をもって参加できる活動量

スポーツ少年団の現状と課題

・子どもたちが本当に望むスポーツ活動とは

ルールにこだわり過ぎず、自発的な運動を育
むような環境づくり、仕掛け
→子どもたちにとって楽しく興味もてる
活動プログラムの提供
→一人でも多くの子どもにスポーツの喜び
を提供する

第2期「スポーツ基本計画」(スポーツ庁)

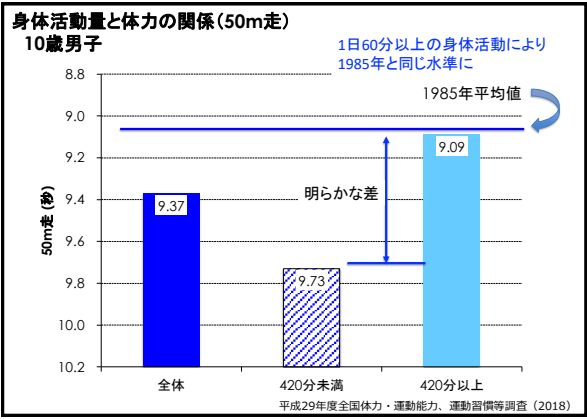
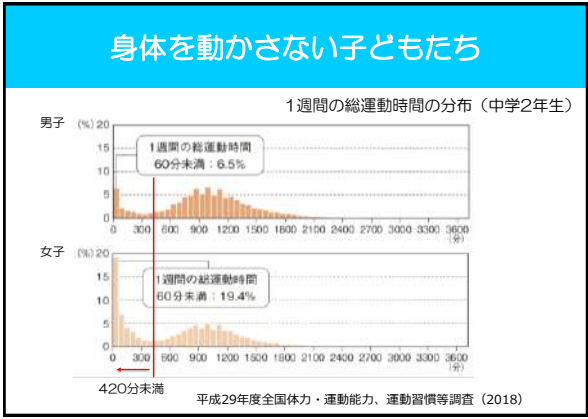
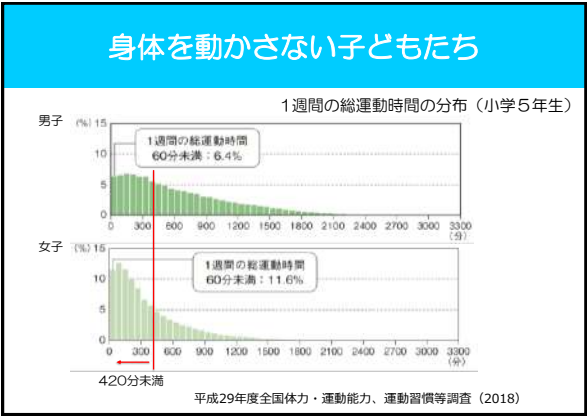
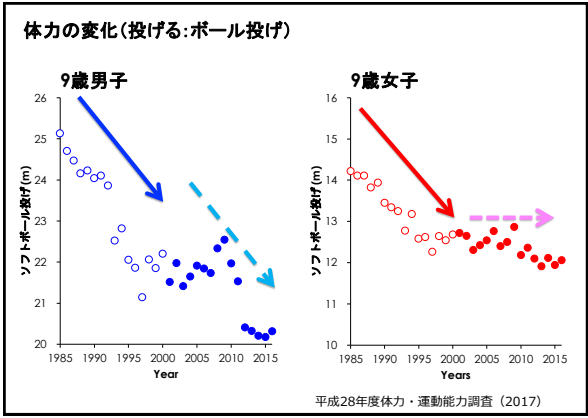
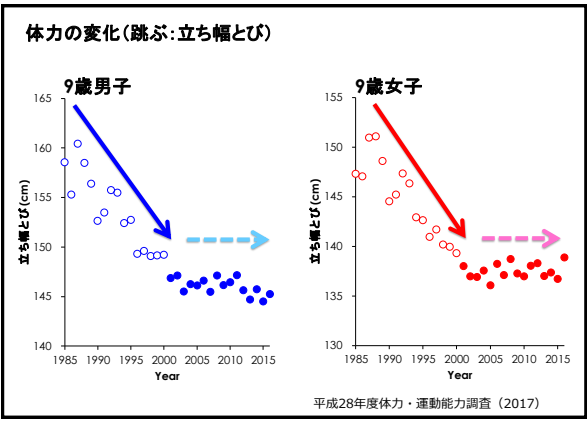
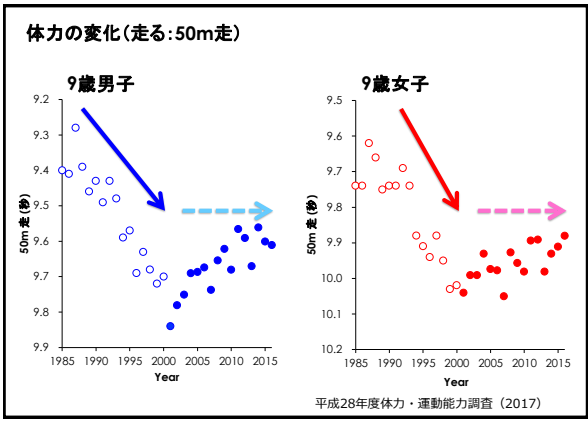
第2期「スポーツ基本計画」(平成29年3月24日策定)

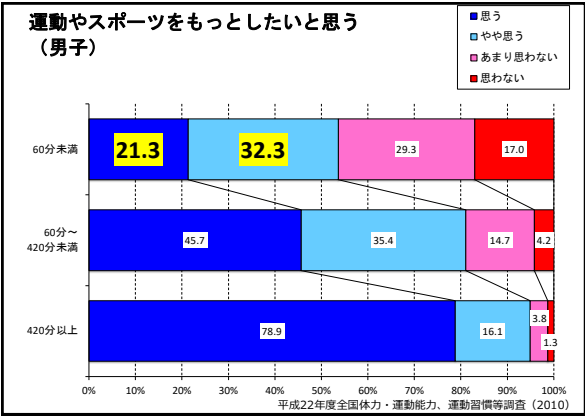
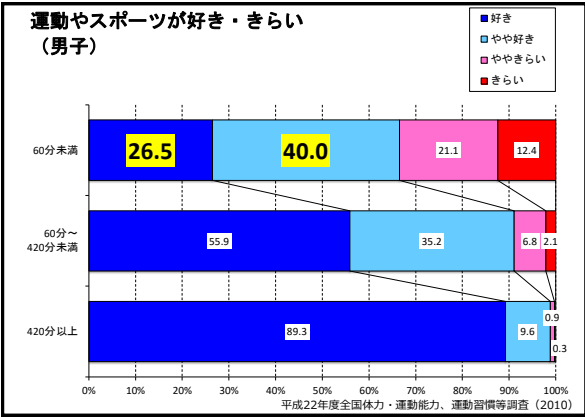
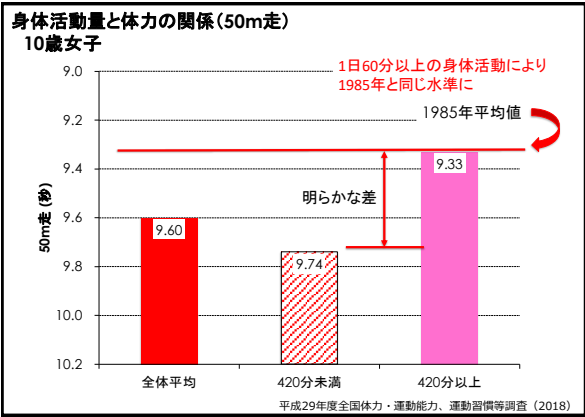
- 第3章 今後5年間に総合的かつ計画的に取り組む施策
- 1 スポーツを「する」「みる」「ささえる」スポーツ参画人口の拡大と、
そのための人材育成・場の充実
 - (1) スポーツ参画人口の拡大
 - ② 学校体育をはじめ子供のスポーツ機会の充実による運動習慣
の確立と体力の向上

【具体的施策】
ケ 国は、日本体育協会(日体協)と連携し、総合型クラブ、スポーツ少年団の活動に関する情報を発信して、参加を促進させることによ
り、複数種目や多様なスポーツの経験を含む地域における子供の
スポーツ機会の充実を図る。



(NHK、クローズアップ現代より)





身体を動かさない子どもたち

- ・ 3人に2人は「運動・スポーツが好き」
- ・ 2人に1人は「運動・スポーツがしてみたい」

↓

この子たちをほっておけないでしょう！

平成22年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査 (2010)

スポーツ少年団に期待される役割

<スポーツ少年団の3つの理念>

- 一人でも多くの青少年にスポーツの喜びを提供する
- スポーツを通して青少年のこころとからだを育てる
- スポーツで人々をつなぎ、地域づくりに貢献する

■ 一人でも多くの青少年にスポーツの喜びを提供する(子どものスポーツ習慣の定着)

➡ 1 幼児受け入れのための環境整備

■ スポーツを通して青少年のこころとからだを育てる(豊かな人間性・社会性の育成)

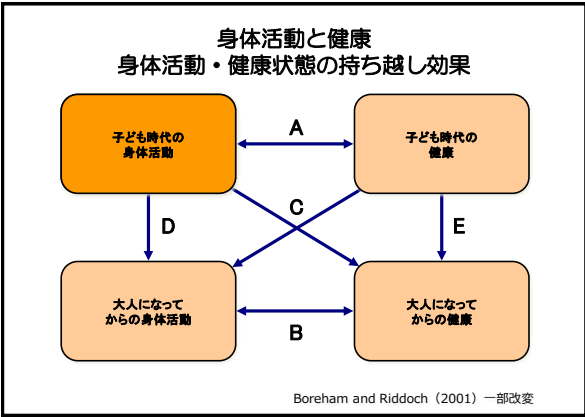
➡ 2 スポーツ少年団の理念の普及・実践

➡ 3 オリンピック精神の普及

■ スポーツで人々をつなぎ、地域づくりに貢献する

日本スポーツ少年団第10次育成8か年計画・アクションプラン2017-
「スポーツで人々をつなぎ、地域づくりに貢献しよう」

4



スポーツ少年団に期待される役割

■ 子どものスポーツ習慣の定着

① 幼児受け入れのための環境整備

- 幼児期からからだを動かして遊ぶ経験をした子どもは、その後も活動的な傾向にある
- 生涯にわたる心身の健康づくりの観点からも、まずは幼児がからだを動かす楽しさにふれ、その継続による運動習慣づくりに努めることが大切

(幼児期からのACPガイドブック／公益財団法人日本体育協会)

- 平成28年度に幼児期からのアクティブ・チャイルド・プログラム(ACP)完成
→ プログラムの構築
- 平成27年度から幼児期からのアクティブ・チャイルド・プログラム(ACP)普及講習会を実施
- 平成28年度から同講師講習会を実施
→ 指導者・指導者養成講師の養成
- 平成29年度登録から団員の登録年齢引き下げ
(原則、小学生以上→3歳以上)
→ 規模の整備



主な今後の展開

- ・ 平成29年度から幼児期からのアクティブ・チャイルド・プログラム都道府県普及促進研修会を実施
- ・ アクティブ・チャイルド・プログラム総合サイトの充実

5

身体活動・運動・体力の現状と問題点

2. からだの操作が未熟な幼児が増えている

5歳児になっても、

「階段の昇り降り」「靴の履き替え」など

→ 片足でバランスがとれない

→ 多様な動きを身につけることは、健康で安全な生活を送る上でとても大切です

身体活動・運動・体力の現状と問題点

3. 自発的な運動の機会が減っている

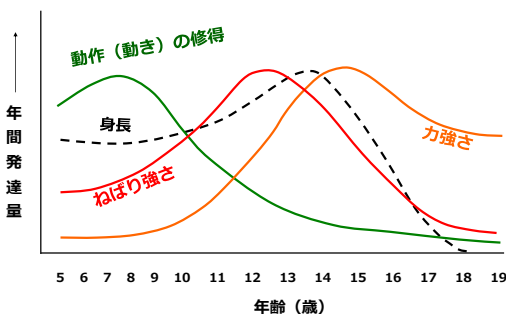
「特定のスポーツだけ取り組む」

→ 多様な動きを身につけることが大切です。

→ 幼児が興味をもって遊びに自発的に関わることが重要です。

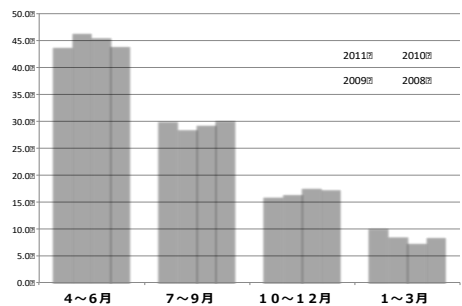


体力・運動能力要素はいつ発達するか



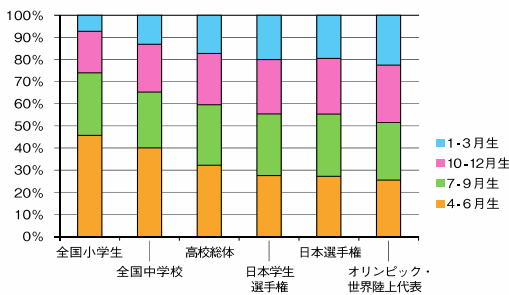
宮下（1980）一部改変

小学生交流大会出場者の生まれ月分布



日本陸上競技連盟（2013）

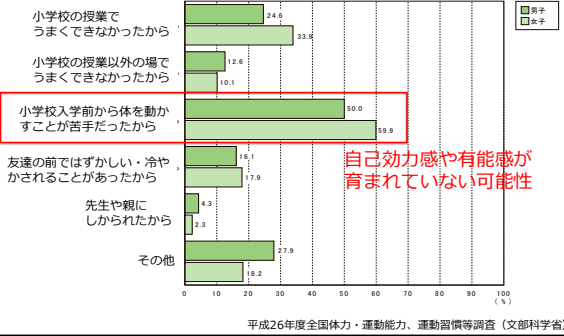
全国大会出場者および代表選手の生まれ月分布



日本陸上競技連盟（2013）

運動（遊び・スポーツ）がきらいな理由

何がきっかけできらいになりましたか？



自己効力感や有能感が育まれていない可能性

平成26年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査（文部科学省）

体力低下

動きの質の低下

- 身のこなしが下手、動きが未熟
- ・・・自分の身体をうまくコントロールできない



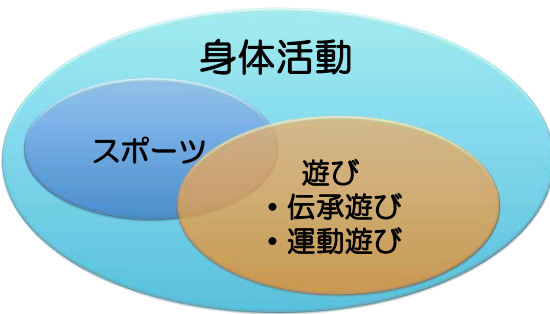
日常動作・スポーツ動作に反映

立ち幅跳びのパフォーマンス評価

量的（優劣） / 質的（介入・指導）



動きの質を高める運動プログラム



アクティブ・チャイルド・プログラムとは、ガイドブックのすべてを通じた一連の指導法のこと

1. 序言
2. 目的と意義
3. 対象年齢と指導者の役割
4. 指導者の役割と指導者の役割
5. 指導者の役割と指導者の役割
6. 指導者の役割と指導者の役割
7. 指導者の役割と指導者の役割
8. 指導者の役割と指導者の役割
9. 指導者の役割と指導者の役割
10. 指導者の役割と指導者の役割
11. 指導者の役割と指導者の役割
12. 指導者の役割と指導者の役割
13. 指導者の役割と指導者の役割
14. 指導者の役割と指導者の役割
15. 指導者の役割と指導者の役割
16. 指導者の役割と指導者の役割
17. 指導者の役割と指導者の役割
18. 指導者の役割と指導者の役割
19. 指導者の役割と指導者の役割
20. 指導者の役割と指導者の役割
21. 指導者の役割と指導者の役割
22. 指導者の役割と指導者の役割
23. 指導者の役割と指導者の役割
24. 指導者の役割と指導者の役割
25. 指導者の役割と指導者の役割
26. 指導者の役割と指導者の役割
27. 指導者の役割と指導者の役割
28. 指導者の役割と指導者の役割
29. 指導者の役割と指導者の役割
30. 指導者の役割と指導者の役割
31. 指導者の役割と指導者の役割
32. 指導者の役割と指導者の役割
33. 指導者の役割と指導者の役割
34. 指導者の役割と指導者の役割
35. 指導者の役割と指導者の役割
36. 指導者の役割と指導者の役割
37. 指導者の役割と指導者の役割
38. 指導者の役割と指導者の役割
39. 指導者の役割と指導者の役割
40. 指導者の役割と指導者の役割
41. 指導者の役割と指導者の役割
42. 指導者の役割と指導者の役割
43. 指導者の役割と指導者の役割
44. 指導者の役割と指導者の役割
45. 指導者の役割と指導者の役割
46. 指導者の役割と指導者の役割
47. 指導者の役割と指導者の役割
48. 指導者の役割と指導者の役割
49. 指導者の役割と指導者の役割
50. 指導者の役割と指導者の役割
51. 指導者の役割と指導者の役割
52. 指導者の役割と指導者の役割
53. 指導者の役割と指導者の役割
54. 指導者の役割と指導者の役割
55. 指導者の役割と指導者の役割
56. 指導者の役割と指導者の役割
57. 指導者の役割と指導者の役割
58. 指導者の役割と指導者の役割
59. 指導者の役割と指導者の役割
60. 指導者の役割と指導者の役割
61. 指導者の役割と指導者の役割
62. 指導者の役割と指導者の役割
63. 指導者の役割と指導者の役割
64. 指導者の役割と指導者の役割
65. 指導者の役割と指導者の役割
66. 指導者の役割と指導者の役割
67. 指導者の役割と指導者の役割
68. 指導者の役割と指導者の役割
69. 指導者の役割と指導者の役割
70. 指導者の役割と指導者の役割
71. 指導者の役割と指導者の役割
72. 指導者の役割と指導者の役割
73. 指導者の役割と指導者の役割
74. 指導者の役割と指導者の役割
75. 指導者の役割と指導者の役割
76. 指導者の役割と指導者の役割
77. 指導者の役割と指導者の役割
78. 指導者の役割と指導者の役割
79. 指導者の役割と指導者の役割
80. 指導者の役割と指導者の役割
81. 指導者の役割と指導者の役割
82. 指導者の役割と指導者の役割
83. 指導者の役割と指導者の役割
84. 指導者の役割と指導者の役割
85. 指導者の役割と指導者の役割
86. 指導者の役割と指導者の役割
87. 指導者の役割と指導者の役割
88. 指導者の役割と指導者の役割
89. 指導者の役割と指導者の役割
90. 指導者の役割と指導者の役割
91. 指導者の役割と指導者の役割
92. 指導者の役割と指導者の役割
93. 指導者の役割と指導者の役割
94. 指導者の役割と指導者の役割
95. 指導者の役割と指導者の役割
96. 指導者の役割と指導者の役割
97. 指導者の役割と指導者の役割
98. 指導者の役割と指導者の役割
99. 指導者の役割と指導者の役割
100. 指導者の役割と指導者の役割

全体発表会

～ブロックリーダー研究大会の開催報告と
成果・問題点のポスター報告～

全体発表会 発表資料

- 北海道・東北ブロック (北 海 道) P16～17
- 関東ブロック (栃 木 県) P18～19
- 北信越ブロック (長 野 県) P20～21
- 東海ブロック (静 岡 県) P22～23
- 近畿ブロック (和歌山県) P24～25
- 中国ブロック (島 根 県) P26～27
- 四国ブロック (愛 媛 県) P28～29
- 九州ブロック (熊 本 県) P30～31

令和元年全国スポーツ少年団リーダー連絡会 ポスター資料（北海道）

令和元年度全国スポーツ少年団リーダー連絡会
ブロック研究大会ポスター報告会
北海道・東北ブロック（担当：北海道リーダー代表者 甲谷 一乃）

7

E スポーツ指導実践 プログラム作成・実践

リーダー研修等での初対面の小学生向けのスポーツプログラムを作成
＊実践はスポーツ活動につなげるための導入部分のみ

スポーツ	対象
バスケット	低学年
バスケット	高学年
サッカー	低学年
サッカー	高学年
1班	5～6人 × 4班

午前で指導案作成 午後から体育館で実践・発表

令和元年度全国スポーツ少年団リーダー連絡会
ブロック研究大会ポスター報告会
北海道・東北ブロック（担当：北海道リーダー代表者 甲谷 一乃）

8



令和元年度全国スポーツ少年団リーダー連絡会
ブロック研究大会ポスター報告会
北海道・東北ブロック（担当：北海道リーダー代表者 甲谷 一乃）

9

F ディスカッション

～現状と今を考える～

①各道県に分かれて話し合う

（活動状況、課題の洗い出し、悩み等確認）

②スポーツ実践の時の班で情報を持ち寄りさらに話し合う

（各道県の悩み、取組み等共有 他県のためにできることとは）

～各同県目標設定～

1日目のディスカッションを元に来年度の研究大会までにできること

やることをピックアップ

また、今回のテーマ リーダー力を鍛えるため にできること

やることをそれぞれ各道県で話し合い全体で発表

令和元年度全国スポーツ少年団リーダー連絡会
ブロック研究大会ポスター報告会
北海道・東北ブロック（担当：北海道リーダー代表者 甲谷 一乃）

10



令和元年度全国スポーツ少年団リーダー連絡会
ブロック研究大会ポスター報告会
北海道・東北ブロック（担当：北海道リーダー代表者 甲谷 一乃）

11

◆大会を開催した成果、反省、課題

成果

「各道県の悩み、不安、積極的に行っていることなどを共有しあって情報交換ができた。

研究大会以降の目標、取り組んでいくことを明確にできた

今回のプログラムを通してリーダー自立のための一歩になることを学ぶことができた

今回のテーマである ～リーダー力を鍛えよう～ を達成しようと個々人が積極的に活動に取り組めた」

反省

「最後、研究大会テーマについてまとめる際に全員のテーマのとりえ方が違って混雑があった

」

令和元年度全国スポーツ少年団リーダー連絡会
ブロック研究大会ポスター報告会
北海道・東北ブロック（担当：北海道リーダー代表者 甲谷 一乃）

12

これからの課題

・東北ブロック研究大会を日独交流くらい楽しめる会にする

・過去のプログラムを活用して今のリーダーにあったプログラムを作成する

・文集や動画を使って、今回参加できなかったメンバーやこれから入会する予定の中学生へ研究内容を伝える

○北海道リーダー会としてできること

→リーダー自立のための一歩としてリーダーで役割分担をしてできることを増やす

毎月開催の定例会出席率を上げる

リーダー間の交流を今以上に増やす

◆昨年度の全国リーダー連絡会で協議・検討したことがどれくらい生かされたか

全国のリーダー会の情報を共有することで次回以降の研究大会の発展へ大きく繋げることができた。

第17回
関東ブロックスポーツ少年団
リーダー研究大会

栃木県大会

大会テーマ

関東ブロック内スポーツ少年団リーダーの相互研修を通し、各都県及びリーダー会の設置を促進するため、関東各都県スポーツ少年団スポーツ少年団リーダー代表によるブロック内の研究大会を開催する。

理由：リーダー会の資質（物理的なものは除く）の向上

期日 平成30年10月20日(土)～21日(日)

※受付 12：30～/解散 13：00予定

会場 今市青少年スポーツセンター

参加対象 下記事項を満たす者で、関東各都県スポーツ少年団本部長の推薦する者

(1)リーダー

ア、平成30年度スポーツ少年団に登録している者。

イ、原則シニア・リーダー認定者で都県リーダー会に加入している者。

ウ、スポーツ少年団活動に対し、積極的に参加し、自分自身の意見を持ち、集団生活に際し、規則正しい行動のとれる者。

指導者

ア、平成30年度スポーツ少年団に指導者登録している者。

イ、関東各都県スポーツ少年団において、リーダー育成の中心的存在である指導者。

ウ、集団生活に優れ、今後のスポーツ少年団活動に意欲を持っている者。

経費 一人当たり2000円

運営スタッフの体制・運営方法

スタッフ5名 役員7名

タイムキーパー、会場設営・撤去など

参加者

都道府県名	栃木県	埼玉県	山梨県	群馬県	千葉県	茨城県	東京都
リーダー	5名	4名	3名	3名	3名	1名	1名
指導者	1名	1名	1名	1名	1名	1名	1名
合計	6名	5名	4名	4名	4名	2名	2名

※今大会は神奈川県は不参加

大会概要

・基調講演 富田 寿人先生

講演テーマ「リーダーとは？」

「リーダー研究でやるべきこと」

・分科会①(対談形式)

事前に各都県の強み、弱みなどを出してもらい、対談をすることで各都県の理想のリーダー会に近づける。

各都県の一対一の対談で行った。

例 山梨ー茨城 群馬ー千葉 東京ー栃木 埼玉

各都県で抱えている共通の弱みやその都県にない強みを話し合うことで各都県のレベルアップをすることができた。

大会概要

・創作レク

場所 体育館 対象年齢 小学生4～6年生 男女
内容 プログラムの空き時間を埋めるレクリエーションの創作
各都県を混ぜて3チームに分けた。
2時間でレクリエーションの創作ができ、レクリエーションの
幅が広がり、レクリエーションの創作力がついた。

・全体会① 分科会まとめ

各都県で理想のリーダーに必要な「質」を出し合い、各都県ごとの「質の向上」に
必要なことは何かを見つけ課題とした。

大会概要

- ・全体会② 今後の関東ブロックリーダー研究大会について
三巡目を迎え…
 - ・引継ぎノートの継続
 - ・委任状制度の導入検討
 - ・事前研修の再開検討

大会を開催した成果・改善点・課題

- ・各都県の強み、弱みのアンケート事前に取り、話し合いのテーマを深く掘れ、各都県の状況を共有できた。
- ・会議が長引くことが多かったので上手いまとめ方ができればよかった。
- ・発言をする人が決まってしまう様々な人から意見を聞けなかった。また進行役として発言者をうまく配分できなかった。
- ・分科会①での対談の時間が足りなかったので、もう少し時間をとれるようなタイムスケジュールを目指したい。

北信越ブロック研究大会(報告)



(発表者)北信越ブロック代表
長野県リーダー会

研究大会テーマ スキルアップ～違う視点から見てみよう～

・テーマ設定の理由

スポーツ少年団で活動するリーダーとして今までの視点にとらわれることなく様々な観点から目を向けることで知見を深め今後の活動に活かしていけるようにした。

○日程 平成30年10月27日(土)～10月28日(日)

○場所 長野県 長野市青少年錬成センター

参加対象

リーダー、育成担当指導者(若手指導者) 各県10名

	福井県	石川県	富山県	新潟県	長野県	合計
リーダー	1名	8名	5名	2名	9名	25名
指導者	1名	2名	1名	2名	1名	7名
合計	2名	10名	6名	4名	10名	32名

経費 参加料:3,000円 交通費:自己負担

○運営の体制○

運営スタッフ: 長野県リーダー会高校生以上リーダー・スポーツ少年団指導育成部会
また、研究大会開催にあたり各県代表者2名参加による事前会議を実施し(9月)、出席した各県リーダー代表にも運営の協力をいただいた。

運営方法: リーダーを主体に運営

日 程

1日目 10月27日(土)

13:00 受付
13:30 開会式
14:00 各県活動報告
日独同時交流活動報告
15:00 アイスブレイク
15:30 障がい者スポーツ体験
18:00 夕食
19:00 障がい者スポーツ体験を振り返る
19:30 班別ディスカッション
20:30 入浴・自由交歓

2日目 10月28日(日)

6:30 起床・荷物整理・掃除
7:30 朝食
8:30 掃除・活動準備
9:30 班別ディスカッション(ACP)実践
11:30 ACP改善・成果発表
12:00 昼食
13:00 旗作り・記念撮影
14:00 閉会式

◆プログラム概要

<障がい者スポーツ体験>

長野県障がい者スポーツ協会より講師を派遣いただき体験を行った
体験種目: ①ボッチャ ②シッティングバレー

(講師)

長野県障がい者スポーツ協会
地域コーディネーター 加藤 正 様
・長野冬季パラリンピック 出場
・シッティングバレー強化指定選手



◆プログラム概要

①ボッチャ体験

・年齢問わずチームが組め、競技としての認知度も高いため参加者も経験したことがある人が多かった
競技者として体験したことがある人が多かったため、
審判のやり方を詳しく説明していただき、チーム毎交代で実践

審判を経験できたことで、
各県・単位団でも交流活動の一環として運営が可能に



◆プログラム概要

②シットニングバレー

通常のバレーと違い腰から下を床より浮かせるとルール違反となる

- (1)まずは怪我をしないように姿勢を確認 (2)円形を組み込んで練習 (3)いざ、試合



チーム対戦はうまく試合ができず



動きが制限されるのでバレー経験者も思うように身体が動かない・・・

全員参加の試合に

◆プログラム概要

(障がい者スポーツを体験を振り返る)

今まで思っていた事、体験してみても変化した事を書き出してもらった

(一例)

○今まで感じていたこと

- ・障がい者スポーツの認知度が低い
- ・身体に障がいがある方は生活が大変そう
- ・どう接していいかわからない

○体験して変化したこと

- ・健常者より障がい者の皆さんの方が現状を楽しむようにスポーツをしていると感じた
- ・思っていたよりルールは簡単で誰でも一緒に楽しめる
- ・できる、できないのボーダーラインを決めていたのは自分たちで、工夫すれば一緒に活動できる

○これからやっていきたい事

- ・もっといろいろな障がい者スポーツを体験し、一緒に試合ができるようになりたい！！
- ・今回の経験を周りに伝えていき、障がい者スポーツについてもっと知っていききたい、広めたい
- ・東京パラリンピックが楽しみになった、注目していきたい

◆プログラム概要

＜班別ディスカッション＞ ACP考案・研究大会の今後を考える

◎ディスカッション班分け

- ・中学生 班(アドバイザーとして高校生の運営委員1名配置)
- ・高校生 班(リーダー活動歴が5年未満)
- ・高校生・社会人班(高校生はリーダー活動歴が5年以上)

昨年度の研究会で
中学生主体の班を編成
一定の成果があったため
本年も中学生主体の班を編成

中学生と高校生班はACPを考案し、高校生・社会人班は今後の研究会の活動方針を検討



◆プログラム概要

＜ACP実践＞

実践するにあたって各自に役割分担し、注意点や改善点の書き出しを行った

ACP考案班・・・実技参加者目録

高校生・社会人班・・・指導者・運営リーダー目録



(実践を行う上で工夫したこと)

- ・各自の見る目録を決めることで的確な意見を出せるように工夫する
- ・付箋で書き出す方式にしたことで思った事をそのまま記入することができる
- ・目録を決めた事で観察力を養い参加者が今後
リーダー ⇒ 指導者 に近づいていくためのステップアップのきっかけづくりとした



◆プログラム概要

＜ACP改善 成果報告＞

参加者が記入した意見をもとに考案したACPをブラッシュアップ
具体的に改変した点を全員の前で報告した

高校生・社会人班は今後の活動方針の話し合い結果の発表



(ACP活動全体を通して)

- ・普段「運営」という立場になる機会があまりなく、今後リーダー活動を積極的にやっていく上では必ず必要になるスキルになる。
運営をスムーズに行うためには経験を積んでいくことが重要であり、その機会は今後も研究大会でつくっていく。
- ・ACP自体は対象年齢が幅広い活動になるので、対象者に合わせた工夫が必要。その点を指摘する意見が多かったものの年代も学ぶ場になった。中学生には運営方法を含め特に関心を持った。



大会を開催した成果、反省、課題

(成果)

- ・外部講師を招いてプログラムを行った事で、新たな見識を高めることができた。外部講師を招いての活動は中々単位団活動では行えないので参加者・指導者含めとてもいい機会になった。
- ・中学生主体の活動方法を取り入れたことで、中学生リーダーの発言機会が増え、積極的に意見を言える環境を作る事ができた。

(反省)

- ・運営が混乱する事が多かったので事前の役割分担などの明確化はもっと細かくやらなければならないかった。また事前会議に参加した開催県以外のリーダーにも運営協力をいただく場合は事前会議である程度分担できるように事前会議を有意義な場とする工夫をしていく必要がある。

(課題)

- ・何回も参加しているリーダーも増えてきているため活動内容を発信するなどして新規参加者を増やし、各県のリーダー活動を活性化させる方法を考えていく。

令和元年度全国スポーツ少年団リーダー連絡会 ポスター資料（静岡県）

令和元年度全国スポーツ少年団リーダー連絡会
ブロック研究大会ポスター報告会
東海ブロック（担当：静岡県リーダー代表者 福本 巧）

1

テーマ

障がい者スポーツ

テーマ
設定理由

2020年にオリンピック・パラリンピックが開催されるにあたって、パラリンピック競技の認知度が低いという点から、障がい者スポーツについての知識を深めるため。

◆期日

平成31年3月16日（土）～3月17日（日）

◆場所

静岡県立三ヶ日青少年の家（静岡県）

令和元年度全国スポーツ少年団リーダー連絡会
ブロック研究大会ポスター報告会
東海ブロック（担当：静岡県リーダー代表者 福本 巧）

2

◆参加対象

リーダー、指導者

◆参加者（内訳）

	静岡県	愛知県	三重県	岐阜県	合計
リーダー	13名	11名	11名	14名	49名
指導者	2名	2名	1名	3名	8名
合計	15名	13名	12名	17名	57名

◆経費

参加料：リーダー1人あたり3,500円、指導者1人あたり4,000円
旅費：参加者負担

◆運営スタッフの体制・運営方法

開催県が運営準備、開催県リーダー・指導者が開催準備

令和元年度全国スポーツ少年団リーダー連絡会
ブロック研究大会ポスター報告会
東海ブロック（担当：静岡県リーダー代表者 福本 巧）

3

◆日程

1日目：3月16日（土）	2日目：3月17日（日）
12：00 受付	6：30 起床・清掃・荷物整理
12：30 開会式・オリエンテーション	7：10 朝のつどい
13：00 講義 『障がい者スポーツの理念と意義等』 講師 大胡田 茂夫先生 （静岡県障害者スポーツ指導者協議会）	7：40 朝食
15：00 実技 『ボッチャ体験』	9：00 意見交換 『リーダー会での問題点と改善点』
17：30 タベのつどい	12：00 昼食
18：00 夕食	13：00 発表
19：00 グループワーク 『障がい者スポーツと普通のスポーツの違い』	14：00 閉会式
20：30 発表	

令和元年度全国スポーツ少年団リーダー連絡会
ブロック研究大会ポスター報告会
東海ブロック（担当：静岡県リーダー代表者 福本 巧）

4

◆プログラム概要

1. 講義

「障がい者スポーツの理念と意義等」
大胡田 茂夫先生
静岡県障害者スポーツ指導者協議会

概要
「身体障害者の区分
障がい者スポーツの魅力
障がい者スポーツの理解
障がい者スポーツの課題と意義」

令和元年度全国スポーツ少年団リーダー連絡会
ブロック研究大会ポスター報告会
東海ブロック（担当：静岡県リーダー代表者 福本 巧）

5

◆プログラム概要

1. 講義

・リーダーの感想
「障がい者と障がい者スポーツについて知識を深めることができた。障がい者について一般の人への理解がまだまだ足りない。」

・考えられる課題
「障がい者スポーツを支援する指導者やボランティア不足。利用する施設のバリアフリー化。」

令和元年度全国スポーツ少年団リーダー連絡会
ブロック研究大会ポスター報告会
東海ブロック（担当：静岡県リーダー代表者 福本 巧）

6

◆プログラム概要

2. グループワーク

「テーマ：障がい者と普通のスポーツとの違いはあるのか」

令和元年度全国スポーツ少年団リーダー連絡会 ポスター資料（静岡県）

令和元年度全国スポーツ少年団リーダー連絡会
ブロック研究大会ポスター報告会
東海ブロック（担当：静岡県リーダー代表者 福本 巧）

7

◆プログラム概要

2. グループワーク

- ・リーダーの意見

「使用する道具やルールはもちろん異なるが スポーツを純粋に楽しんだり、技を競い合う、という点では特に違いはないのではないか。」

障がい者スポーツを取り巻く環境が充実していないため、一般社会になかなか浸透しない。」



令和元年度全国スポーツ少年団リーダー連絡会
ブロック研究大会ポスター報告会
東海ブロック（担当：静岡県リーダー代表者 福本 巧）

8

◆プログラム概要

3. 意見交換

「リーダー会での問題点と改善点」

「それぞれの班で問題点を話し合った後にワールドカフェ形式で問題点の共有を行い、各班でそれらの問題点の中から2～3個程度ピックアップして、ピックアップした問題点に対する解決策を話し合い、発表した。」



令和元年度全国スポーツ少年団リーダー連絡会
ブロック研究大会ポスター報告会
東海ブロック（担当：静岡県リーダー代表者 福本 巧）

9

◆プログラム概要

3. 意見交換

「リーダー会での問題点と改善点」

「東海4県のリーダーで話し合ったため各県だけでは出ないような問題点が挙がった。」

①東海それぞれでルールが違う（スマホの使用・身だしなみ等）

ため、東海4県で行う行事には東海で共通のルールを決めるべき。

②下級生リーダーの育成・引き継ぎ。

③リーダーとしての自覚のなさ（挨拶をしない、返事がない等）。」



令和元年度全国スポーツ少年団リーダー連絡会
ブロック研究大会ポスター報告会
東海ブロック（担当：静岡県リーダー代表者 福本 巧）

10

◆大会を開催した成果、反省、課題

成果

「2020年に行われるパラリンピックに向けて、障がい者と障がい者スポーツについて知識を深めることができた。ポッチャという競技を認知でき、みんなで楽しむことができた。東海4県でリーダー会での問題点を話し合うことで問題点や解決策を共有できた。」

反省

「リーダーとして基本のこと（挨拶・返事・10分前行動、5分前集合等）ができていなかった。講義をしてくださった静岡県障害者スポーツ指導者協議会へ今回開催したリーダー研究大会の目的を詳細に伝えられなかったため、講義内容のすれ違いが起きてしまった。」

令和元年度全国スポーツ少年団リーダー連絡会
ポスター資料（和歌山県）

令和元年度全国スポーツ少年団リーダー連絡会
ブロック研究大会ポスター報告会
近畿ブロック（担当：和歌山県リーダー代表者 神保 拓海）

1

テーマ

スローガン：「KINKI step by ステップ.」
～今までの成果を糧に更なる発展～
大会テーマ：繋いだ道 ～legacy road～

テーマ
設定理由

1 道目は「近畿はひとつ」をスローガンに親睦を深め、2 道目は「ステップアップ近畿～置質・技術・連携～」をもとに本質を見直し、進歩した近畿を描いてきました。今道目では「近畿全体で若手指導者育成の足並みを揃え、成果が確実に見えるような議論を」とスタートしてきました。1 道目、2 道目で築き上げたものを土台に成長していく過程で、それぞれが前に進むために、別個しい進化を遂げられる研究大会にしたいという思いでこのスローガンになりました。「step by ステップ」には、着実に一歩一歩コツコツと、という意味や、以前の歩みあってこそ歩み、といった意味が込められています。着実に現実を見つめながら、近畿一丸となって進んでいきたいという想いです。今回リーダー研究大会3 道目の終盤を迎えるにあたり、サブタイトルである～今までの成果を糧に更なる発展へ～をより深く掘り下げ、現在に至るまでに繋いだ道を再確認しより未来に向けた道を繋げるようディスカッションしていきたいと思いいテーマを前年の全国リーダー連絡会においてブロックにて確認をしテーマ設定しました。

◆期日

平成30年6月2日(土)～6月3日(日)

◆場所

和歌山県立紀北青少年の家（和歌山県）

令和元年度全国スポーツ少年団リーダー連絡会
ブロック研究大会ポスター報告会
近畿ブロック（担当：和歌山県リーダー代表者 神保 拓海）

2

◆参加対象

リーダー（若手・中堅・ベテラン）、育成担当指導者（若手・ベテラン）

◆参加者（内訳）

	和歌山 県	大阪府	京都府	滋賀県	兵庫県	奈良県	合計
リーダー	3名	2名	3名	2名	3名	0名	13名
育成担当 指導者	3名	2名	2名	2名	2名	0名	11名
合計	6名	4名	5名	4名	5名	0名	24名

◆経費

参加料：無料 旅費：参加者負担

◆運営スタッフの体制・運営方法

開催県が運営準備、開催県リーダー会会員・育成担当指導者が開催準備

令和元年度全国スポーツ少年団リーダー連絡会
ブロック研究大会ポスター報告会
近畿ブロック（担当：和歌山県リーダー代表者 神保 拓海）

3

◆日程

1日目：6月3日（土）	2日目：6月4日（日）
14：00 受付	6：30 起床・洗面・朝のつどい
14：30 開会行事・オリエンテーション	清掃・荷物整理
15：00 近畿ブロックスポーツ少年 団スポーツ少年大会について	7：30 朝食
15：30 交歓交流活動	9：30 救命・スポーツ実践活動
16：00 障がい者スポーツ 「ポッチャ」実践	10：30 分散会③
17：00 分散会①	12：00 昼食
18：00 夕食	13：00 分散会④
19：30 研究分散会② 「トレーナを学ぶ」	14：00 全体会
20：30 入浴・就寝	15：30 閉会行事

令和元年度全国スポーツ少年団リーダー連絡会
ブロック研究大会ポスター報告会
近畿ブロック（担当：和歌山県リーダー代表者 神保 拓海）

4

◆プログラム概要

1. 近畿ブロックスポーツ少年団
スポーツ少年大会について

近畿ブロックでは、近畿ブロック研究大会
の翌年にブロックのスポーツ少年大会を開催
するよう取り決めており、当年度は兵
庫県で開催されるので、現在決まっている
プログラムやテーマ等を和歌山県開催の研
究大会において共有し、各府県持ち帰り周
知されるよう依頼をしました。
また大会開催時においてリーダーのおかれ
ている役割等についても発表しました。



令和元年度全国スポーツ少年団リーダー連絡会
ブロック研究大会ポスター報告会
近畿ブロック（担当：和歌山県リーダー代表者 神保 拓海）

5

◆プログラム概要

2. 交歓交流活動

研究大会の開催のスタートとして交歓交流
にて交流を深め、分散会においてより質
のよいディスカッションが行えるように、
交歓交流活動を行いました。交歓交流活動
のプログラムにおいてはACP等を含めて
実施しました。

実施プログラム

・ACP



令和元年度全国スポーツ少年団リーダー連絡会
ブロック研究大会ポスター報告会
近畿ブロック（担当：和歌山県リーダー代表者 神保 拓海）

6

◆プログラム概要

3. 障がい者スポーツ「ポッチャ」実践

幅広いスポーツ少年団活動とリーダーから
指導者へのプロセスの中で、新しい見地を
発掘するために、パラリンピック種目でも
あるポッチャの実践活動を行いました。
開催市にて活動されている、総合型地域
スポーツクラブの指導者を招いて、ポッチ
ャ体験と審判についての指導をしてもらい
ました。



令和元年度全国スポーツ少年団リーダー連絡会
ポスター資料（和歌山県）

令和元年度全国スポーツ少年団リーダー連絡会
ブロック研究大会ポスター報告会
近畿ブロック（担当：和歌山県リーダー代表者 神保 拓海）

7

◆プログラム概要

4. 研究分散会 「トレーナを学ぶ」

スポーツ少年団活動の中で団員からリーダー、そしてリーダーから指導者へのプロセスの中で、正しい知識を身に付け、正しい理解のもとに指導を行えるように、講習を受けました。①子どもの成長、②ストレッチ、③レジスタリングトレーニング、④幸せに・かっこよく・モテモテになる方法について実際のストレッチや遊びトレーニングを取り入れながら説明を受けました。

終了後に、質疑応答を実施し、リーダーや指導者においても非常に有効な講習を聞くことができました。



令和元年度全国スポーツ少年団リーダー連絡会
ブロック研究大会ポスター報告会
近畿ブロック（担当：和歌山県リーダー代表者 神保 拓海）

8

◆プログラム概要

5. 救命・スポーツ実践活動

スポーツ少年団活動を行うなかで、急病やけがが起こった際に、正しい対処法を実施できるように講習した。

研究大会に参加している指導者(救急救命士)の指導による、AEDの使用実践をはじめ脈拍の測り方、止血の仕方、搬送要領、やけどの対応方法、過呼吸状態の対応、ホームシックにおける対処等、スポーツ少年団に関わるリアルな体験について学んだ。



令和元年度全国スポーツ少年団リーダー連絡会
ブロック研究大会ポスター報告会
近畿ブロック（担当：和歌山県リーダー代表者 神保 拓海）

9

◆プログラム概要

6. 分散会

分散会 1・3・4
(リーダー：若手、中堅、ベテラン)

●若手リーダー

- 1) 府県での役割と単位団での活動(情報交換)
- 2) 平成30年の具体的スケジュール関わり(情報交換)
- 3) 中堅、ベテランになるための目標(ディスカッション)
- 4) 4巡目のスローガン(ディスカッション)

●中堅リーダー

- 1) 成長の証と目指すべきゴール地点(ディスカッション)
- 2) 平成30年の具体的スケジュールと関わり方(情報交換・ディスカッション)
- 3) 4巡目のスローガン(ディスカッション)

●ベテランリーダー

- 1) リーダーとして歩んできた道
- 2) リーダーとして歩んでいく道
- 3) 平成30年の具体的スケジュールと関わり
- 4) 4巡目のスローガン



令和元年度全国スポーツ少年団リーダー連絡会
ブロック研究大会ポスター報告会
近畿ブロック（担当：和歌山県リーダー代表者 神保 拓海）

10

◆プログラム概要

6. 分散会

分散会 1・3・4
(指導者：若手&ベテラン)

●指導者

- 1) 1巡目、2巡目、3巡目の振り返りと4巡目(奈良県)にむけて
- 2) 歩んできた道
- 3) 歩んでいく道
- 4) 組織的役割について(大会主旨の確認、意義、方向性)
- 5) 4巡目のスローガン
- 6) 他ブロックとの共催
- 7) 日本スポーツ少年団の方向性
- 8) その他



令和元年度全国スポーツ少年団リーダー連絡会
ブロック研究大会ポスター報告会
近畿ブロック（担当：和歌山県リーダー代表者 神保 拓海）

11

◆大会を開催した成果、反省、課題

成果

今年度の大会において特別成果を発生させたわけではないが、持ち回り開催において、スローガンを共有し大会テーマを掲げて大会を実施する事により、各参加カテゴリーにおいて学習し、明日につなげるための活動を実施できたと思う。また4巡目に向けての協議も実施することができたので、引き継いで実施されていく事ができればよいと思います。

反省

定められたスケジュールの中で、大会運営をしたのでプログラムの合間合間が過密状態になり、プログラムごとに質疑や実践時間を多く確保することが出来なかったため参加者に不便をかけてしまいました。



令和元年度全国スポーツ少年団リーダー連絡会
ブロック研究大会ポスター報告会
近畿ブロック（担当：和歌山県リーダー代表者 神保 拓海）

12

◆大会を開催した成果、反省、課題

課題

大会自体における課題については、指導者内にてディスカッションを実施した。運営規模や運営方法について、引き続き取り決め事項として繋いでいく事と、全国リーダー連絡会の開催時期変更等において対応を検討し次年度以降の開催方法について、当研究大会の次年度以降の方向性を検討した。また参加者自体における課題については各カテゴリーにおいて参加協議することにより認識することができた。

◆昨年度の全国リーダー連絡会で協議・検討したことが

どれくらい活かされたか

基本的にはブロッカー巡において、スローガンを定め、大会府県の個別テーマとして大会を引きついで実施している為、成果については十分に活かされていると思います

令和元年度全国スポーツ少年団リーダー連絡会
ブロック研究大会ポスター報告会
中国ブロック（担当：島根県リーダー代表者 西村 亮圭）

1

テーマ

より実践的に楽しさを伝える
(リーダーとしての指導や団員との関わり方)

テーマ
設定理由

開催県として前回の研究大会のテーマを参考とし、より実践的に楽しんでもらうためにACPの要素を含んだオリジナルプログラムを考案した。
・東京オリンピックを意識したバウムクーヘンづくり
・歴史や地域の要素を取り入れたカルタづくり
また、同時開催されるスポーツ少年大会のプログラムの一部を任せることで、企画や実践をする楽しさを学んでもらう。

◆期日

平成30年8月17日(金)～8月19日(日)

◆参加者内訳

◆場所

施設名：島根県立少年自然の家

	岡山県	山口県	広島県	鳥取県	島根県	合計
リーダー	3名	2名	0名	0名	2名	7名
指導者	1名	1名	0名	0名	1名	3名
合計	4名	3名	0名	0名	3名	10名

◆経費

参加料：無料 旅費：参加者負担 運営費：県本部担当者に委任

◆運営スタッフの体制・運営方法

開催県が運営準備、開催県リーダー会会員・育成担当指導者・県本部事務局が開催準備

令和元年度全国スポーツ少年団リーダー連絡会
ブロック研究大会ポスター報告会
中国ブロック（担当：島根県リーダー代表者 西村 亮圭）

2

◆日程

1日目：8/17(金)	2日目：8/18(土)	3日目：8/19(日)
11:00 受付 12:00 昼食 13:00 開会式・オリエンテーション 13:30 自己紹介・各県報告 15:00 創作活動 「バウムクーヘン作り」 16:30 講演 「海洋活動における安全管理」 17:30 DVD 「熱中症予防について」 18:00 夕食 19:00 キャンドルの集いの事前準備 20:00 野外活動 「ナイトハイイク＆星座の観察」 21:00 入浴・自由交歓 22:30 消灯・就寝	06:00 起床 07:00 朝の集い 07:40 朝食 08:30 荷物準備 09:00 日中交流報告 10:00 ディスカッション 「テーマ：リーダーとしての指導や団員との関わり方」 12:00 昼食 13:00 移動 13:30 「SAP体験」 15:30 移動 16:00 炊飯活動 「竹筒飯盒・飯盒炊飯」 ＆「バーベキュー」 19:00 活動運営 「キャンプの集いの運営及び補助」 20:00 振り返り・意見交換 21:00 入浴・自由交歓 22:30 消灯・就寝	06:00 起床 07:00 朝の集い 07:40 朝食 08:30 荷物準備 09:00 ディスカッションと宿題 「テーマ：リーダーとしての指導や団員との関わり方」 10:30 ディスカッション発表 11:30 閉会式 12:00 昼食 13:00 解散

令和元年度全国スポーツ少年団リーダー連絡会
ブロック研究大会ポスター報告会
中国ブロック（担当：島根県リーダー代表者 西村 亮圭）

3

研究大会のみ

共通プログラム

全国連絡会の報告を受け、過去からの流れの把握
反省点とテーマについて協議
翌日以降のプログラムについて協議
キャンドルの集いの事前準備と実践
日中交流報告
SAP体験
朝の集いの事前準備と実践
意見交換
ディスカッション（まとめ）と宿題

開会式
創作活動：バウムクーヘン作り
カルタづくり
講義：海洋活動における安全管理
熱中症の予防について
ナイトハイイク
炊飯活動：竹筒飯盒・バーベキュー
キャンドルの集い



令和元年度全国スポーツ少年団リーダー連絡会
ブロック研究大会ポスター報告会
中国ブロック（担当：島根県リーダー代表者 西村 亮圭）

4

◆共通プログラム概要

- ・自己紹介：不安な気持ちから楽しい気持ちに切り替わったことを認識させることが目的の自己紹介。黒板に具体的な自分の気持ちを書いてもらい、どのように変化したのかを可視化した。
- ・講義「海洋活動における安全管理、熱中症の予防について(DVD)」：ライフセーバー講師をお呼びし、翌日の海洋活動における注意点や事故にあった場合の対処法などを学んだ。
- ・炊飯活動：夕飯として竹筒飯盒を作った。初めての人が多かったが楽しくできた。
- ・創作活動「カルタづくり」：団員とリーダーに中国五県の歴史的、文化的なスポットの名前を伝えそれをもとに絵を描かせカルタを作ってもらった。知らないスポットは名前から類推したり連想するしかなく(例えば宍道湖という名前から湖を連想するといったもの)描く際戸惑う人が思惑通り続出した。



令和元年度全国スポーツ少年団リーダー連絡会
ブロック研究大会ポスター報告会
中国ブロック（担当：島根県リーダー代表者 西村 亮圭）

5

◆共通プログラム概要

- ・創作活動「バウムクーヘン作り」
オリンピックムーブメントにちなんで
青ーミント 黄ーレモン味 黒ーココア味
緑ー抹茶味 赤ー食紅のみ
の5色のバウムクーヘンをつかった。
慣れない作業と色に戸惑い驚きながらも、
楽しんで作ることができた。
- ・ナイトハイイク：暗間の中少しの明かりで山道を歩き
星の観察をした。





令和元年度全国スポーツ少年団リーダー連絡会
ブロック研究大会ポスター報告会
中国ブロック（担当：島根県リーダー代表者 西村 亮圭）

6

研究大会のプログラムの一環として共通プログラムの一部を企画・実践した。

- ・バウムクーヘン作り
- ・キャンドルの集い
- ・朝の集い
- ・炊飯活動

そしてその都度、反省や課題などを検討していった。



令和元年度全国スポーツ少年団リーダー連絡会
ブロック研究大会ポスター報告会
中国ブロック（担当：島根県リーダー代表者 西村 亮圭）

7

・バウムクーヘン作りでの振り返り

企画・実践
・団員への指示
・移動の際の誘導

良かった点
・リーダー自ら動く意思は
感じられた
県民交流活動の推進に
つながり、
今後の活動の参考に
する

課題
・最初のプログラムで緊張してい
た
・開催側とリーダーとの意思
疎通が足りなかった

改善案
・わからないことがあったら
遠慮せずに指導者へ相談
する
・自分のすべきことを事前
に確認しておく

令和元年度全国スポーツ少年団リーダー連絡会
ブロック研究大会ポスター報告会
中国ブロック（担当：島根県リーダー代表者 西村 亮圭）

8

炊飯活動の振り返り

企画・実践
・団員への指示
・バーベキュー、竹筒飯盒の手伝い

良かった点
・リーダー自身が片付けや火おこし
など積極的におこなっていた
・バーベキューがおいしかった

課題
・リーダーが一人で行動している時
があった
・団員への指示が不十分な時が
あった

改善案
・周りをよく見て自分のすべき
ことを考える。
・自分から周りの人に話しかけ
る

令和元年度全国スポーツ少年団リーダー連絡会
ブロック研究大会ポスター報告会
中国ブロック（担当：島根県リーダー代表者 西村 亮圭）

9

キャンドルの集いの振り返り

企画・実践
・ゲームの企画
雲源地
船頭さんの言うとおり
アリさんぞうさん
天邪鬼
ダンスの指導・実践

良かった点
・途中時間が余ることがあったが
臨機応変に対応できた（ミニゲー
ムをするなど）
・リーダー自身が楽しんでいた。

課題
・一生懸命になりすぎて動きが
固くなった。
・団員をうまくゲームの輪に入
れることができなかった
・声が小さい時があった

改善案
・団員に積極的に声をかける
（馴染めてない人）
・笑顔でいることを意識する。
・声が届いていたか確認する。

令和元年度全国スポーツ少年団リーダー連絡会
ブロック研究大会ポスター報告会
中国ブロック（担当：島根県リーダー代表者 西村 亮圭）

10

朝の集いの振り返り

企画・実践
・ラジオ体操の指導
・ミニゲームの実施
人間知恵の輪
手つなぎ鬼

良かった点
・団員が楽しんでいた。
・指示がきちんと通っていた
・積極的に団員に話しかけていた

課題
・ラジオ体操をする前にミニゲームを
してしまったため体が動かすけが
をしてしまう団員がいた。
・事前準備が不足していた。

改善案
・運動をするまえには事前の体操
を徹底する。
・会場の下調べをキチンとしておく

令和元年度全国スポーツ少年団リーダー連絡会
ブロック研究大会ポスター報告会
中国ブロック（担当：島根県リーダー代表者 西村 亮圭）

11

1日目を経ての目標設定

- ・バウムクーヘン作りなどで自分たちの役割を見失う場面があった。
- ↓
- ・問題点：連携が取れていない、思いだけで行動が伴っていない
- ↓
- ・改善案：団員や指導者他のリーダーとコミュニケーションをしっかりとる
- ↓
- ・方法：広い視点を持って状況を把握する、わからないときは聞く
- ↓
- ・目標：リーダーだからこそできることがしたい！
指導者と団員とのパイプになりたい！
- ↓
- ・結論：リーダーとしてどのように団員や指導者と関われるかを考える

令和元年度全国スポーツ少年団リーダー連絡会
ブロック研究大会ポスター報告会
中国ブロック（担当：島根県リーダー代表者 西村 亮圭）

12

◆大会を開催した成果、反省

成果
各県の団員と共通プログラムを通して交流することができた。
1つの失敗から10を学べることを再認識し次へつなげることを考えることができた。
少年大会のプログラムを企画・実践することにより※PDCAサイクルを何回か回すことができ、リーダー自身の成長につながった
（※PLAN（計画）→DO（実行）→CHECK（反省）→ACTION（改善）→PLAN→・・・）

反省
開催県とブロック大会参加者とのあいだの意思の疎通が不十分だったため出だして躓いてしまった。
基本的なことができていない（指導者との連携、準備運動など）ことが多々あったのでできるように徹底する。

◆宿題
次年度開催鳥取県に取り入れてほしいプログラムの提案

令和元年度全国スポーツ少年団リーダー連絡会
ポスター資料(愛媛県)

令和元年度全国スポーツ少年団リーダー連絡会
ブロック研究大会ポスター報告会
四国ブロック (担当: 愛媛県リーダー代表者 河内 昂斗)

1

テーマ

リーダー会活動向上のための3 Rの法則
【Review (再検討)・Reuse (再使用)・Reunion (再会)】

テーマ
設定理由

今回の事業では、リーダー会活動を活発化させるために、改めて、各県でどのような活動を行っている必要があるかを再検討する。プログラム内における障害者スポーツやACPなどで得た知識を各県に持ち帰り、各種事業へ還元すること。そして、四国4県のリーダーが、様々なリーダー事業で再会を果たせるよう交流を深めることを目的とする。

◆期日

平成30年11月3日(土)～11月4日(日)

◆場所

えひめ青少年ふれあいセンター (愛媛県)



令和元年度全国スポーツ少年団リーダー連絡会
ブロック研究大会ポスター報告会
四国ブロック (担当: 愛媛県リーダー代表者 河内 昂斗)

2

◆参加対象

スポーツ少年団リーダー会(中学生以上)代表者 各県5名以内
スポーツ少年団リーダー育成担当指導者 各県1名

◆参加者 (内訳)

	愛媛県	香川県	徳島県	高知県	合計
リーダー	3名	5名	4名	4名	16名
育成担当指導者	1名	1名	1名	1名	4名
合計	4名	6名	5名	5名	20名

◆経費

参加料: 無料 旅費: 参加者負担

◆運営スタッフの体制・運営方法

講師: 田中 雅人(愛媛県スポーツ少年団副本部長: 愛媛大学教授)
開催県事務局が開催準備(事務担当者: 1名)
愛媛県リーダー会会員・育成担当指導者が開催準備および運営補助



令和元年度全国スポーツ少年団リーダー連絡会
ブロック研究大会ポスター報告会
四国ブロック (担当: 愛媛県リーダー代表者 河内 昂斗)

3

◆日程

1日目: 11月3日(土)	2日目: 11月4日(日)
12:30 受付 13:30 開会式 オリエンテーション 14:00 プログラムⅠ 『障害者スポーツ体験』 競技: ゴールボール 運営: 河内 昂斗(愛媛県) 15:00 プログラムⅡ 『ACPプログラム案作成』 講義: 田中 雅人 17:00 タベのつどい 17:30 タ食 18:30 プログラムⅢ 『各県取組報告』 『テーマディスカッション』 テーマ: 今、リーダーにできること ～東京2020オリンピック・パラリンピックを契機に～	6:30 起床・清掃・荷物整理 7:30 朝食 8:30 部屋点検 9:00 プログラムⅣ 『ACP指導実践』 対象: 四国スポーツ少年団大会参加者 (小学生4年生～中学生1年生: 28名) 10:30 「ACP指導反省」 「テーマディスカッションまとめ」 11:30 アンケート・閉会式 12:00 昼食・解散



令和元年度全国スポーツ少年団リーダー連絡会
ブロック研究大会ポスター報告会
四国ブロック (担当: 愛媛県リーダー代表者 河内 昂斗)

4

◆プログラム概要

プログラムⅠ
「障害者スポーツ体験: ゴールボール」
担当 愛媛県スポーツ少年団リーダー 河内 昂斗

「東京オリンピック・パラリンピックに向けて、機運を高めていくため、実施。
また、視力に障害を持つ人はどのような状況で、生活しているのかを考える機会とした。ゲーム性が高く、体験したことのある参加者も少なかったこともあり、普段馴染みのないスポーツを体験することができた。」





令和元年度全国スポーツ少年団リーダー連絡会
ブロック研究大会ポスター報告会
四国ブロック (担当: 愛媛県リーダー代表者 河内 昂斗)

5

◆プログラム概要

プログラムⅡ
「ACPプログラム案作成」
講師 愛媛県スポーツ少年団副本部長 田中 雅人(愛媛大学教育学部教授)
《講義内容》
・現代の子どもたちの体力の減少について
・ACPが必要とされる理由

○プログラム作成に係る手順と方法について

- 1 実施希望種目を話し合い
- 2 各班と調整し、決定
- 3 プログラムの作成
- 4 用具を使って、リハーサル





令和元年度全国スポーツ少年団リーダー連絡会
ブロック研究大会ポスター報告会
四国ブロック (担当: 愛媛県リーダー代表者 河内 昂斗)

6

◆プログラム概要

プログラムⅢ
その1「各県取組報告」
特に気になった取組
・県内イベントでのACPブース導入(愛媛県)
・スポーツ少年団以外の青少年団体との交流(香川県)
・リーダー会独自の広報紙(徳島県)
・リーダー会のSNSアカウント設立(高知県)

その2「テーマディスカッション」

テーマ: 今、リーダーにできること
～東京オリンピック・パラリンピックを契機に～

○ディスカッションの流れ

- 1 各班で、出来るだけ多くの意見を出し合う
- 2 各県毎に、班で出た意見を参考に各県で実施可能な内容を考える





令和元年度全国スポーツ少年団リーダー連絡会
ポスター資料(愛媛県)

令和元年度全国スポーツ少年団リーダー連絡会
ブロック研究大会ポスター報告会
四国ブロック (担当:愛媛県リーダー代表者 河内 昂斗)

7

◆プログラム概要

プログラムⅣ

「ACP指導実践」

対象者: 四国スポーツ少年大会参加者
(小学4年生～中学1年生 計28名: 4班)

○各班作成プログラム

1班 ボール取り合戦～平成最後の戦い～

用具 ボール、フラフープ

期待できる効果 走力向上、判断力の向上

2班 しっぽとりおに

用具 タスキ、ビブス

期待できる効果 体力向上、協調性の向上

3班 Changing Color

用具 ケンパリング、タスキ、カラーコーン

期待できる効果 敏捷性、判断力

4班 フラドンジャン

用具 カラーコーン、フラフープ、ホイッスル

期待できる効果 巧緻性、敏捷性、跳躍力



令和元年度全国スポーツ少年団リーダー連絡会
ブロック研究大会ポスター報告会
四国ブロック (担当:愛媛県リーダー代表者 河内 昂斗)

8

◆プログラム概要

プログラムⅣ

「ACPプログラム反省」

参加者の感想

○内容・時間は

(①良くない ②あまり良くない ③良い ④大変良い ⑤2 未回答 ①)

良かった理由

- ・やったことのない遊びをして楽しかった。
- ・リーダーと交流できて良かった。
- ・いろんなゲームができたから
- ・リーダーが優しく接してくれた。
- ・全てみんなと協力できた。
- ・みんなが笑えるようなゲームで楽しかった。
- ・リーダーも混ざってするのが良いと思った。

悪かった理由

- ・もう少し身体を動かしたかった。



令和元年度全国スポーツ少年団リーダー連絡会
ブロック研究大会ポスター報告会
四国ブロック (担当:愛媛県リーダー代表者 河内 昂斗)

9

◆プログラム概要

プログラムⅣ

「ACPプログラム反省」

1班 ボール取り合戦

○良かった点

- ・ルールがわかりやすい。
- ・ただ動くだけでなく、コミュニケーションを取れる。
- ・さまざまなバリエーションができた。

○改善点

- ・参加者がぶつかりそうな場面が多かった。
- ・移動中の動作で、課題を与える。

2班 しっぽとりおに

○良かった点

- ・敏捷性だけでなく、頭を使いながら活動できた。
- ・長い時間動いたため、体力をつけることができた。
- ・さまざまなバリエーションができた。

○改善点

- ・鬼の数と逃げる人数のバランスを改善したい。
- ・端の方について、動かない子どももいた。

3班 Changing Color

○良かった点

- ・掛け声が英語や指定のない色も混ぜて、判断力も養った。
- ・どこから鬼が来るかわからないため、参加者の集中力が高かった。

○改善点

- ・説明をよりわかりやすくする。
- ・移動中の動作で、課題を与える。

4班 フラドンジャン

○良かった点

- ・スキップがあるため、コミュニケーションを自然に取れる。
- ・走能力・敏捷性・ジャンプ力など、さまざまな体力要素を取り入れている。

○改善点

- ・次の順番で待っている子たちが、暗くなる。
- ・コースが簡単で、1人でゴールまで行ってしまいうケースがあった。



令和元年度全国スポーツ少年団リーダー連絡会
ブロック研究大会ポスター報告会
四国ブロック (担当:愛媛県リーダー代表者 河内 昂斗)

10

◆大会を開催した成果、反省、課題
(アンケート集計結果) ※参加者21名



質問項目	①未回答	②良くない	③あまり良くない	④良い	⑤大変良い	4or5回答率
1 アイスブレイクの内容・時間は	2	0	1	16	2	85%
2 ゴールボールの内容・時間は	2	0	0	9	10	90%
3 ACPプログラム作成の内容・時間は	2	0	2	11	6	80%
4 各県の取組報告の内容・時間は	2	0	2	15	2	80%
5 テーマディスカッションの内容・時間は	2	0	2	11	6	80%
6 ACP指導実践の内容・時間は	2	0	0	10	9	90%
7 ACP指導反省の内容・時間は	2	0	0	12	7	90%

令和元年度全国スポーツ少年団リーダー連絡会
ブロック研究大会ポスター報告会
四国ブロック (担当:愛媛県リーダー代表者 河内 昂斗)

11

◆大会を開催した成果、反省、課題
(アンケート集計結果) ※参加者21名

1 アイスブレイクの内容・時間は

○良かった点

- ・他県の人の名前が知れた。
- ・自己紹介に力を入れている内容だった。

2 ゴールボールの内容・時間は

○良かった点

- ・普段行う機会が無いから。
- ・バランピックに興味を持つことができた。
- ・班の人のたとえを際められた。

○改善点

- ・時間やルールが曖昧だった。

3 ACPプログラム作成の内容・時間は

○良かった点

- ・言葉、APの活動内容を考えることが無いから。
- ・様々な案が出てきて、良いものを作ることができた。
- ・実際にやってみながら、プログラムを作れたから。

○改善点

- ・少し時間が足りなかった。

4 各県の取組報告の内容・時間は

○良かった点

- ・他県の良い所を吸収できる。
- ・短くても伝えたいことをまとめて言われた。

○改善点

- ・もう少し、詳しく聞きたかった。

5 テーマディスカッションの内容・時間は

○良かった点

- ・バランピックについて、語ったのは良い機会だった。
- ・班で考えてから各県で考えたのは、意見が増えて、まとめたやすかった。

○改善点

- ・ディスカッションのテーマが大きい内容のため、例年話し合う内容(リーダー不足)が偏ってしまう。

6 ACP指導実践の内容・時間は

○良かった点

- ・自分たちが作成したものを実践できて、うれしかった。
- ・小学生も楽しめていたから。
- ・シニア・リーダースクールでできなかったから。

7 ACP指導反省の内容・時間は

○良かった点

- ・問題点を違う班の人に指摘されて客観的にまとめられた。
- ・さらに良いものになるために、改善点を見つめられた。

令和元年度全国スポーツ少年団リーダー連絡会
ブロック研究大会ポスター報告会
四国ブロック (担当:愛媛県リーダー代表者 河内 昂斗)

12

総括

「プログラム全体を通して、実践を伴う活動を行なったため、体験的に学ぶことができたことに加え、リーダー同士の交流を深めることができた。また、指導実践をプログラムの作成から反省まで行うことができたため、現状の課題を明確にすることができた。

一方で、各プログラムを詰め込んで、実施したため、各プログラム内の時間不足を指摘する意見が多かった。

今回の研究大会で得た知識を各県に還元し、リーダー会活動をさらに促進していくことを四国ブロックの共通認識とする。」



2019年度は、香川県で開催！

令和元年度全国スポーツ少年団リーダー連絡会
ポスター資料（熊本県）

令和元年度全国スポーツ少年団リーダー連絡会
ブロック研究大会ポスター報告会
九州ブロック（作成者：熊本県体育協会 下舞）

1

テーマ	特殊な状況に応じたACP (アキティブ・チャイルド・プログラム) の作成
テーマ設定理由	①前年度のテーマ 平成29年度九州ブロックリーダー研究大会は、「アクティブチャイルドプログラム（ACP）の作成」がテーマだった。 ②テーマの引き継ぎ事項 発展的に研究協議を行うために、前年度テーマに加え、「障がい児ができるACP。または健康者と一緒にできるACP」というテーマが引き継がれた。 ③より現実的なテーマ設定 「障がい」という分野は、専門的な知識が必須であるため、それだけをテーマにすることは困難であった。しかし、今後、多様な状況でもACPをすることを求められる可能性がある。より大きな視点から、「特殊な状況（多様な場面）」にも対応できるACPの作成をテーマに設定した。

◆期日：平成30年12月15日（土）～16日（日）
◆場所：国立阿蘇青少年自然の家（熊本県）

令和元年度全国スポーツ少年団リーダー連絡会
ブロック研究大会ポスター報告会
九州ブロック（作成者：熊本県体育協会 下舞）

2

◆参加対象
リーダー、育成担当指導者

◆参加者（内訳）

福岡県	リーダー（3）名・育成担当者（1）名
佐賀県	リーダー（4）名・育成担当者（1）名
長崎県	リーダー（5）名・育成担当者（2）名
大分県	リーダー（5）名・育成担当者（1）名
宮崎県	リーダー（4）名・育成担当者（2）名
鹿児島県	リーダー（7）名・育成担当者（1）名
沖縄県	リーダー（3）名・育成担当者（1）名
熊本県	リーダー（9）名・育成担当者（3）名

計52名

◆経費
参加料：ひとり3,000円 旅費：参加者負担

◆運営スタッフの体制・運営方法
開催県のリーダー会・育成担当指導者が、計画・運営

令和元年度全国スポーツ少年団リーダー連絡会
ブロック研究大会ポスター報告会
九州ブロック（作成者：熊本県体育協会 下舞）

3

◆日程

1日目：12月15日（土）	2日目：12月16日（日）
●午後 ・計画輸送 ・開会行事・オリエンテーション ・研修①講義 内容：障がいの種類とスポーツ 講師：熊本障がい者スポーツ指導者協議会 ・研修②分科会 内容：特殊な状況に応じたACPの作成 ●夜間 ・研修③分科会 内容：研修②と同じ	●午前 ・研修④全体発表・まとめ 内容：差別発表・評論 ・閉会行事 ●午後 ・計画輸送

令和元年度全国スポーツ少年団リーダー連絡会
ブロック研究大会ポスター報告会
九州ブロック（作成者：熊本県体育協会 下舞）

4

◆プログラム概要

1. 研修①講義
内容：「障がいの種類とスポーツ」
講師：中尾 直道 氏【熊本障がい者スポーツ指導者協議会】

講義概要

- 各障がいの種類及びその概要
(1)身体障がい（肢体不自由、視覚障がい、聴覚障がい、内部障がい）
(2)知的障がい（最重度、重度、中度、軽度）
発達障がい（コミュニケーション障がい、自閉症スペクトラム障がい、注意欠如・多動性障がい、局限性学習障がい、運動性障がい）
(3)精神障がい（統合失調症、うつ病、双極性障がい）
- 障がい者のスポーツ不参加要因、障がい者の生活方針
- 各障がいに応じたスポーツ指導上の留意点
- パラリンピック、国民スポーツ大会の種目の紹介

令和元年度全国スポーツ少年団リーダー連絡会
ブロック研究大会ポスター報告会
九州ブロック（作成者：熊本県体育協会 下舞）

5

◆プログラム概要

2. 研修②分科会、研修③分科会

(1)各課題（特殊な状況）における制限や注意点の確認
(2)特殊な状況に応じたACPの作成

班分け・担当課題

- 1班 活動場所が狭い。
- 2班 年齢幅がある。
- 3班 大人数が全員で活動する。
- 4班 少人数で活動する。
- 5班 団体内に聴覚障がい者がいる。
- 6班 団体内に視覚障がい者がいる。
- 7班 幼児しかいない。

令和元年度全国スポーツ少年団リーダー連絡会
ブロック研究大会ポスター報告会
九州ブロック（作成者：熊本県体育協会 下舞）

6

2. 研修②分科会、研修③分科会

(1)各課題（特殊な状況）における制限や注意点の確認

1班 活動場所が狭い。
状況：走り回るほどの広さは無い。教室など全員が座っている。
歩行困難な人がいる。etc
制限：走り回れない。移動が少ない遊び。

2班 年齢幅がある。
状況：小学1年生～6年生の団体など。
制限：年齢差により体力差が生じる。
ルールが難しいと低学年が楽しめず、簡単だと高学年が楽しめない。

3班 大人数が全員で活動する。
状況：50人や100人など。年齢層は同じくらい。
制限：ルール説明が行き届かない。工夫が必要。
グループ分けをする遊びか、全員が同じ動きをする遊びなどが良い。

令和元年度全国スポーツ少年団リーダー連絡会
ブロック研究大会ポスター報告会
九州ブロック（作成者：熊本県体育協会 下舞）

7

4 班 少人数で活動する。
状況：10人以下や、大人1人対子ども1人。etc
制限：遊びの種類が限定される。単調だと飽きがきやすい。

5 班 団体内に聴覚障がい者がいる。
状況：聴覚に頼らない活動。
制限：口頭での説明だけでは伝わらない。
音の合図や音を使った遊びができない。

6 班 団体内に視覚障がい者がいる。
状況：視覚に頼らない活動。
制限：自由に走り回る遊びだと衝突などの危険がある。
身振り手振りの説明ができない。難しいルール説明ができない。

7 班 幼児しかいない。
状況：言葉での説明が困難。運動強度レベルに特段の配慮が必要。
制限：ルールの理解度が低いため、口頭の説明ができない。

令和元年度全国スポーツ少年団リーダー連絡会
ブロック研究大会ポスター報告会
九州ブロック（作成者：熊本県体育協会 下舞）

8

2. 研修②分科会、研修③分科会
(2) 特殊な状況に応じたＡＣＰの作成
★ＡＣＰ作成の際の注意点

1 分科会の目的は、「特殊な状況（担当課題）に応じたＡＣＰの作成」とし、研修④全体会での発表が最終目的ではなく、今後の活動に役立つ内容を考えること。

2 まずは、特殊な状況（担当課題）の詳しい状況を整理する。

3 整理した特殊な状況に応じたＡＣＰを作成する。
① 新たなＡＣＰを作成する。
② 既存のＡＣＰを特殊な状況に対応するよう工夫する。
③ 既存のＡＣＰを整理する。

4 複数のパターンを作成した方が良い（数が多いと選択肢が増えるため）。

5 参加者全員が平等に楽しめる内容を作成すること。

6 プログラムごとの意図をもって作成すること。
① 幼児または児童の身体や神経系の発育発達段階に応じた運動遊びであり、運動遊びを通して発育発達を促すような内容となることも念頭に置くこと。
② 参加者の交流やアイスブレイキングもＡＣＰの重要な内容の一つである。

令和元年度全国スポーツ少年団リーダー連絡会
ブロック研究大会ポスター報告会
九州ブロック（作成者：熊本県体育協会 下舞）

9

★各班が作成したＡＣＰ

1 班 活動場所が狭い。
・ボール運び・爆弾ゲーム・ボール落とし・新聞じゃんけん・フルーツバスケット

2 班 年齢幅がある。
・ドッチフリスビー・ねことねずみ・関所破り・セブンジャンプ・どんじゃんけん

3 班 大人数が全員で活動する。
・九州うまかもん・だいこん抜き・おしくらまんじゅうオニ・知恵の輪

4 班 少人数で活動する。
・コーンキャッチ・Ｓケン・ベースラン

5 班 団体内に聴覚障がい者がいる。
・だいこん抜き・ムカデドッジボール・風船運びリレー・ボールリレー・宅配便

6 班 団体内に視覚障がい者がいる。
・ブラインドドッジボール・言うこと一緒にやること一緒に

7 班 幼児しかいない。
・転がしドッチ・しっぽ取りゲームChild Ver.・ひよこのたたかい

令和元年度全国スポーツ少年団リーダー連絡会
ブロック研究大会ポスター報告会
九州ブロック（作成者：熊本県体育協会 下舞）

10

◆大会を開催した成果、反省、課題

成果
研修①講義では、障がいの種類を知ることができたが、障がいの分野は専門性が高く、取り扱うには非常に慎重になるべき内容であった。
障がいの種類によって、また、同じ障がいであっても個人によっては配慮する点が異なることが分かった。また、良かれと思っていたことでも、障がい者にとっては迷惑となる場合があることもわかった。
研修②③分科会では、研修①講義を踏まえ、各担当課題ごとに研究協議を行い、それぞれの状況の整理と配慮する点を確認したうえで、既存のＡＣＰの整理や新たなＡＣＰの作成を行った。

反省
議題に対して内容をくみ取り、目的意識を持った研究協議（ディスカッション）をすることが難しい。また、研修④全体発表では、説明（プレゼンテーション）が難しかった。

課題
どのようなテーマで研究大会を行ったとしても、その日に初めて会った人たちと目的をもった活発なディスカッションをすることや、分かりやすいプレゼンテーションをすることは、リーダーとしても必須条件であり、今後の課題である。

情報交換会

「これからのスポーツ少年団のあるべき姿
～東京2020大会後を見据えて～」
～ワールドカフェ方式～

令和元年度全国リーダー連絡会

これからのスポーツ少年団のあるべき姿
～東京2020大会後を見据えて～

に関する情報交換会
-ワールド・カフェ方式-

「ワールド・カフェ」とは？

ワールド・カフェとは、カフェでくつろいでいるようなリラックスした雰囲気のもと行われる話し合いのことです。
参加者は4～5人ずつに分かれ、テーブルごとに対話をするといったもので、1,000人以上でも実施できます。一定時間が過ぎれば、テーブルのメンバーを入れ替え、対話することを繰り返し行います。
少人数で対話をするので、相手の意見を聞きやすく、自分の意見も言いやすいのが特徴です。

ワールド・カフェのエチケット

・対話を楽しむ

正解も間違いありません。一人ひとりの発言が誰かの気づきや新たな視点の発見に繋がります。
アイデアや思いついたことを書く！描く！つなぐ！

・話をよく聴く

話すばかりではなく、他の人の話によく耳を傾けましょう。

・ポジティブシンキング

できないことや批判的な意見は控える→どうすれば実現できるのか考えてみよう

・テーマにフォーカス

テーマについて話をするよう心がけましょう。著しい脱線は限られた対話の時間を浪費してしまいます。

情報交換の方法

1. 各テーブルに模造紙を一枚置く

2. 各テーブルのメンバーがポストイットに「これからのスポーツ少年団のあるべき姿～東京2020大会後を見据えて～」に関して、「実施したいこと」や「実施できること」などを書き込む。

3. 各メンバーがポストイットに記入したことを発表し、情報を分類/整理しながら、模造紙に貼りつけていく。他のメンバーの発表に感じたこと、思いついたこと、気づいたことを語り、模造紙に書き込む。

4. 時間がきたら**ホスト役**の1名を残し、他のメンバーは自由に違うテーブルに移動します。**ホスト役**は、これまで話し合われた内容を新しく移動してきたメンバーに説明し、さらに話し合いを続けます。新しい情報・意見が出たら模造紙に書き込む。

ホスト役			
ブロック	都道府県	ホスト役	
		リーダー	指導者
1.北海道・東北ブロック	秋田県	矢部 太陽	小畑 治隆
2.関東ブロック	東京都	加藤 友也	細野 芽生
3.北信越ブロック	福井県	松田 恭輔	津田 睦夫
4.東海ブロック	三重県	高山 野亜	位田 華季
5.近畿ブロック	和歌山県	神保 拓海	守田 旭那
6.中国ブロック	山口県	西依 輝	西依 輝
7.四国ブロック	徳島県	椎橋 海斗	清水 楓
8.九州ブロック	大分県	森田 花菜	御手洗 くるみ

「ワールド・カフェ」の進め方

ラウンド1 (30分)

・ テーブル上に模造紙を置き、テーマを中央に書き込む
・ テーマについて、各自ポストイットに情報や意見を書き込み、発表、意見を分類しながら模造紙に貼り付けていく

ラウンド2 (20分)

・ ホストはテーブルに残り、他の人は別のテーブルへ自由に移動する
・ ホストがこれまでの話し合いの内容を説明して「実施したいこと」や「実施できること」のアイデアをたくさん出そう

ラウンド3 (20分)

・ ラウンド2と同じように、ホストはテーブルに残り、他の参加者は移動する
・ ホストが過去2回の話し合いの内容を説明し、さらに意見の交換をして出ていない情報を補完しよう

ラウンド4 (20分)

・ ラウンド1と同じテーブルに戻ることで、他のテーブルで交換した意見や情報をグループで共有し、課題を見つたり、解決方法を見出したりできるよう努めよう

「これからのスポーツ少年団のあるべき姿～東京 2020 大会後を見据えて～」に関する
情報交換会 リーダー代表者情報交換のまとめ

キーワード	これからのスポーツ少年団のあるべき姿
スポーツ少年団活動に関すること	みんなで集まって、楽しんで身体を動かすことができる
	誰もが登録でき、活動ができる
	スポーツができる環境を整え、スポーツをしたい子どもがスポーツをできる居場所となる
	大人も一緒に活動できる
	身体を動かすことの楽しさを伝えることができる
	年齢に関係なく行えるスポーツ活動ができる
	誰もが楽しく活動できる
	障がい者と一緒に行えるレクリエーションや ACP ができる
	障がいの有無にかかわらず、全員が一緒に活動ができる
	障がい者スポーツの普及促進ができる
	スポーツを続けることを大切（生涯スポーツ）にする
	マイナースポーツやニュースポーツの普及ができる
	学校においてリーダーが ACP を実践し、運動の楽しさを伝えることができる
	複合スポーツを実施することができる
	競技スポーツ以外も取り組むことができる
	都道府県、地域の垣根を超えた活動ができる
	小学生に様々なスポーツが有ることを伝えられる
	子どもたちのこころとからだの成長を促すことができる
	小学生に多様な種類のスポーツが有ることを教え、自分に合ったものを見つけられる
	身体を動かすことの楽しさを知り、様々なスポーツへの興味関心を広げられる
	子どもが放課後に遊びに行く感覚で体を動かせる
	興味の持った活動がとことんできる
	子どもたちが楽しく興味を持てる活動をする
	市や町のイベントに参加する等地域に密着する
	健康増進を促進できる場所になる
	スポーツを通して国際交流活動ができる
	スポーツを通して地域交流を担える
	オリンピック・パラリンピックを通して国際交流活動ができる
その他	フェアプレーの精神を発信することができる
	誰もが知っている
	自分で考えて行動ができる人を増やすことができる
	小学生の「卒団」がない

※情報交換会において議論された内容を抜粋し、事務局にて一部加筆・修正を加えております。

「これからのスポーツ少年団のあるべき姿～東京 2020 大会後を見据えて～」に関する
情報交換会 リーダー育成担当指導者代表 情報交換のまとめ

キーワード	これからのスポーツ少年団のあるべき姿
スポーツ少年団活動に関すること	活動に参加したいときに参加できる
	体を動かす楽しさを知ってもらうきっかけとなる
	生涯スポーツの入り口となる
	発育・発達を考えたスポーツの入り口となる
	単位団活動における中高生の活躍の場がある
	中学校（中学生）におけるスポーツ少年団活動の活性化
	子どもだけでなく大人も楽しめる
	外遊びに代わる運動（あそび場）の場所となる
	障がいを持つ子どもを受け入れられる
	多世代化を進め、指導者、リーダー、母集団みんなで支える
	市や町での区別なく誰もが参加できる
	幼児の受入環境を整える
	遊びを活動の中心とする
	オリンピックのマイナー種目を取り入れる
	複合種目を実施している単位団の増加
	スポーツ活動のみならず、キャンプや登山といったレクリエーション活動も実施する（競技種目にとらわれないスポーツ活動を行う）
	勝利至上主義ではなく、子どもたちにやりがいを感じさせる指導の充実を図る
	子どもたちの居場所となれる
	子どもが継続して活動を行える
	子どもたちにとってより楽しい場となる
理念に関すること	体罰や暴言を根絶し、子どもたちが安心して活動できる
	自由な活動ができる（例：ゆるスポ）
	運動が苦手な子どもを減らすことができるよう、子どもがスポーツを楽しむことを第一にする
	自発的な運動を促進する環境
理念に関すること	スポーツ少年団の理念に沿った活動をしている
	スポーツ少年団を通してこころとからだを育てスポーツの楽しさを発信していけるようになる
	スポーツを楽しむという理念を持って活動をする

※情報交換会において議論された内容を抜粋し、事務局にて一部加筆・修正を加えております。

「これからのスポーツ少年団のあるべき姿～東京 2020 大会後を見据えて～」に関する
情報交換会 リーダー育成担当指導者代表 情報交換のまとめ

キーワード	これからのスポーツ少年団のあるべき姿
地域や行政 に関する こと	スポーツ少年団活動が地域の方に認知される
	地域行政や体育・スポーツ協会との連携ができる
	行政機関に認知される
	競技団体との連携ができる
	学校関係者の理解が得られる
	学校との信頼関係を築き、連携を深める（部活動における外部指導者として、単位団指導者が登用されるなど）
	幼稚園・保育所等や放課後学級や学童保育との連携ができる
	お祭り等の地域行事との関わりをもち、地域に根差す
	地域に必要とされる
	地域のコミュニティとなる
	地域住民全員でかかわりあえる
	地域産業や企業との連携を進める
リーダーに 関すること	リーダーが主体となって、障がい者スポーツについて知るだけでなく広げる活動を行える
	ACP を小学生に指導する等、リーダーの活躍の場がある
クラブに関 すること	スポーツ少年団からクラブチームへ移行
	スポーツクラブとの合併

※情報交換会において議論された内容を抜粋し、事務局にて一部加筆・修正を加えております。

Handwritten notes and sticky notes on a whiteboard during a World Cafe session. The notes are written in Japanese and include various topics related to international relations and development.

Top Left: 国際化の進展 (Progress of Internationalization)

Top Right: 国際化の進展 (Progress of Internationalization)

Middle Left: 国際化の進展 (Progress of Internationalization)

Middle Right: 国際化の進展 (Progress of Internationalization)

Bottom Left: 国際化の進展 (Progress of Internationalization)

Bottom Right: 国際化の進展 (Progress of Internationalization)

Sticky Notes: Several yellow and pink sticky notes are attached to the board, containing additional handwritten notes.

指 2班

子儀也
實乙子

地減の

子どもだけで
なく、大人も
もと スポーツを
楽しめる 国へ

作3！
444-4340！

盛い上がりも
たもつ!

おにぎりに
「どように
がかわったか」
ぞ 驚かしてよ!

オリンピックに
出た選手が
メダルを持って
来てくれる!
(②、③、④、⑤)

スウェーデン大
の活性化
参加人数

2021年
全國大會
東京！

地域にふく
まがみま
(45.50%)

3777-12

利ビエリ
強化 旋盤
目録

オリンピック
マイナ種目
を取り入れる。
(単行本)

人地關係

認知度UP!

指導者として
活動しやすい
手帳！

陸軍省史料
八の五がし
(原任国ぞ)

スポンジの
理念

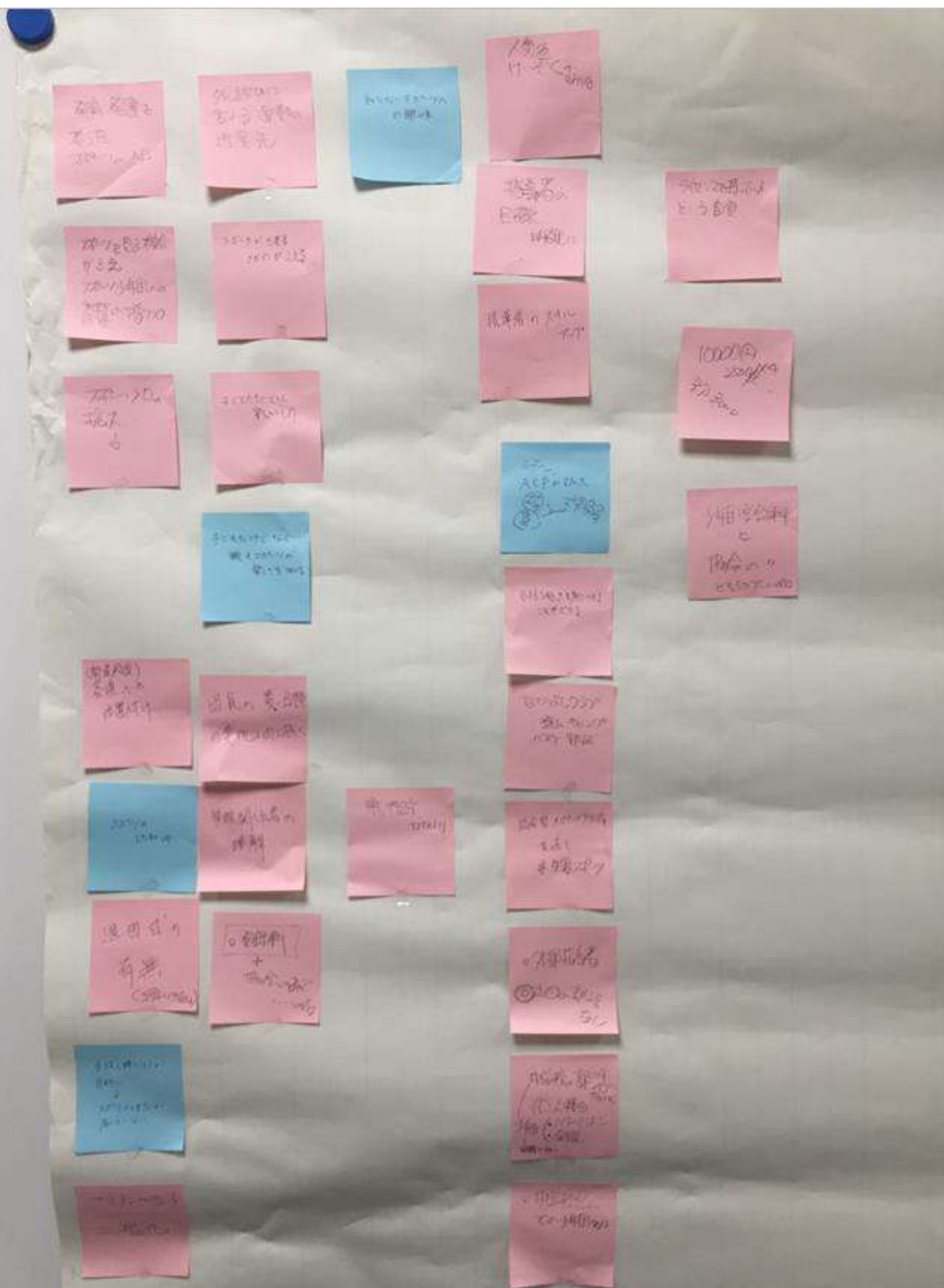
本来あるべき
スロ^o少^{age}
増やす！

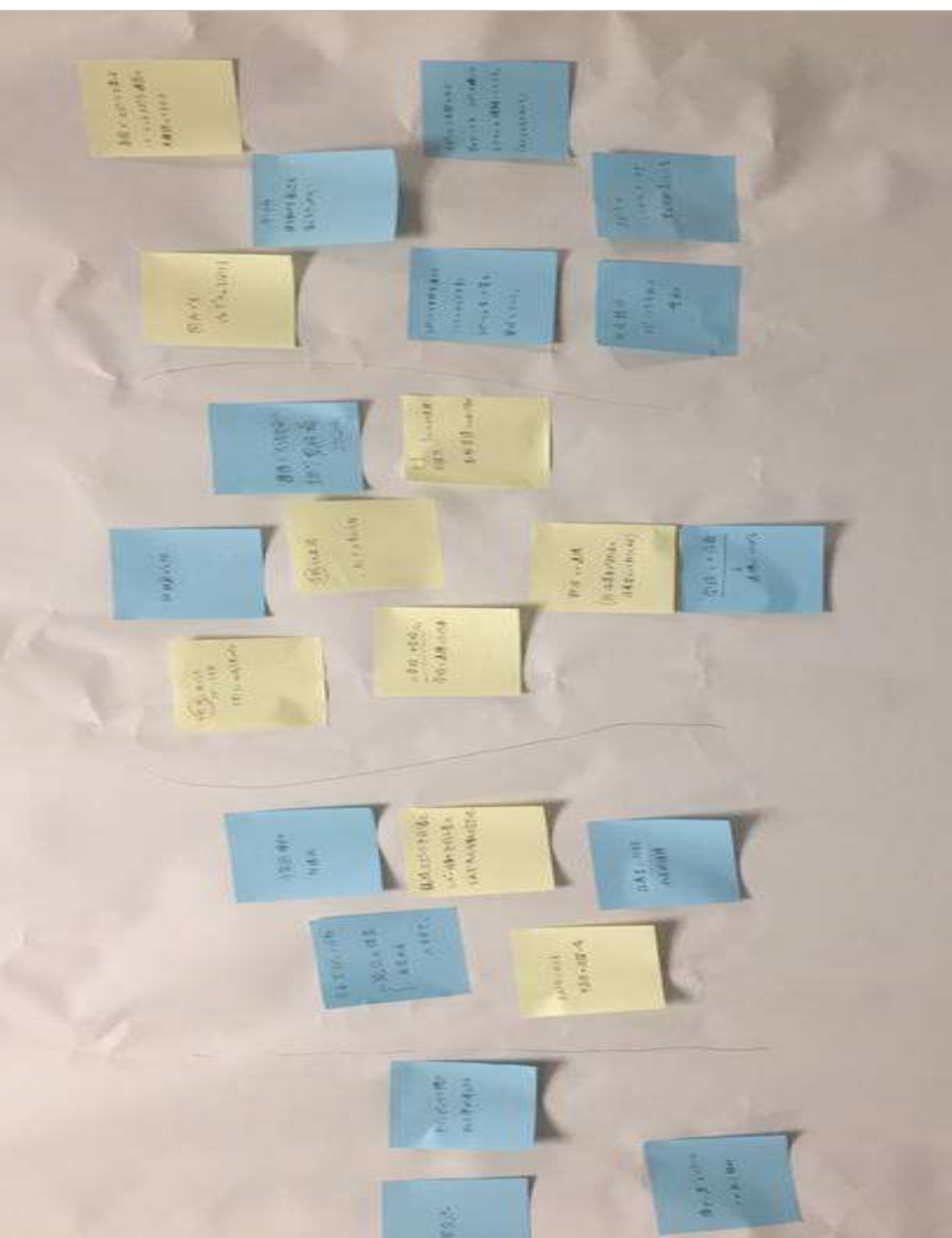
おまじの
スポンジケーキ
(3才~)

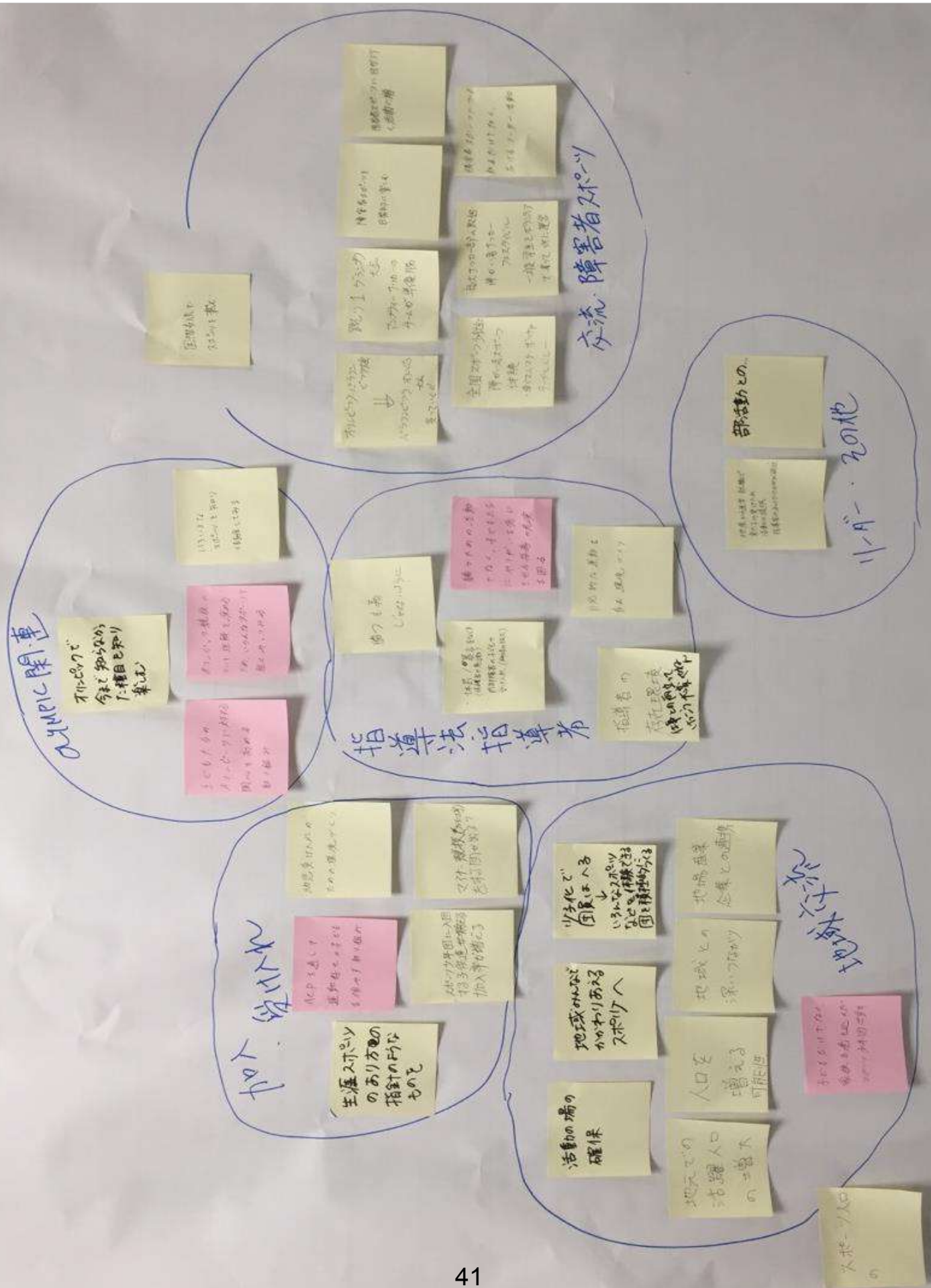
おそがメイ
(おそがメイ)

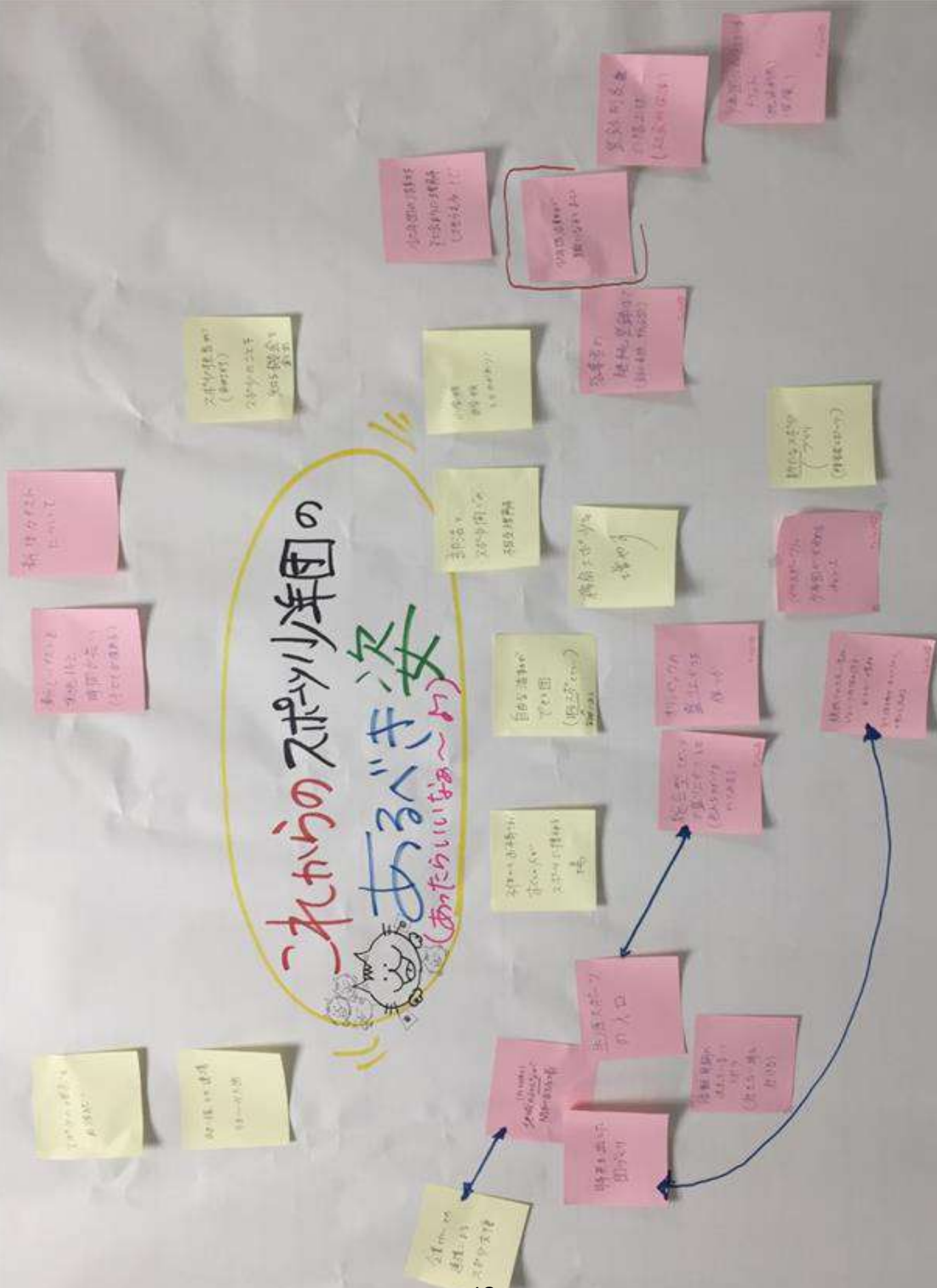
發達階級見
人の対応
不可修

スポンサー
人々
↓
増える









新設施設
活用促進

施設利用の促進
利用促進
利用促進

全大会
（縮小）

利用促進
利用促進
利用促進

利用促進
利用促進
利用促進

又新たな理念
と実現

利用促進
利用促進
利用促進

利用促進
利用促進
利用促進

利用促進
利用促進
利用促進

利用促進
利用促進
利用促進

利用促進
利用促進
利用促進

利用促進
利用促進
利用促進

利用促進
利用促進
利用促進

利用促進
利用促進
利用促進

一番近い種
変な

オリビュ、パルピ
から始まるスクリ

↑ 産めさすき!!
会場の中や外、多岐にわたる

利用促進
利用促進
利用促進

利用促進
利用促進
利用促進

利用促進
利用促進
利用促進

利用促進
利用促進
利用促進

利用促進
利用促進
利用促進

利用促進
利用促進
利用促進

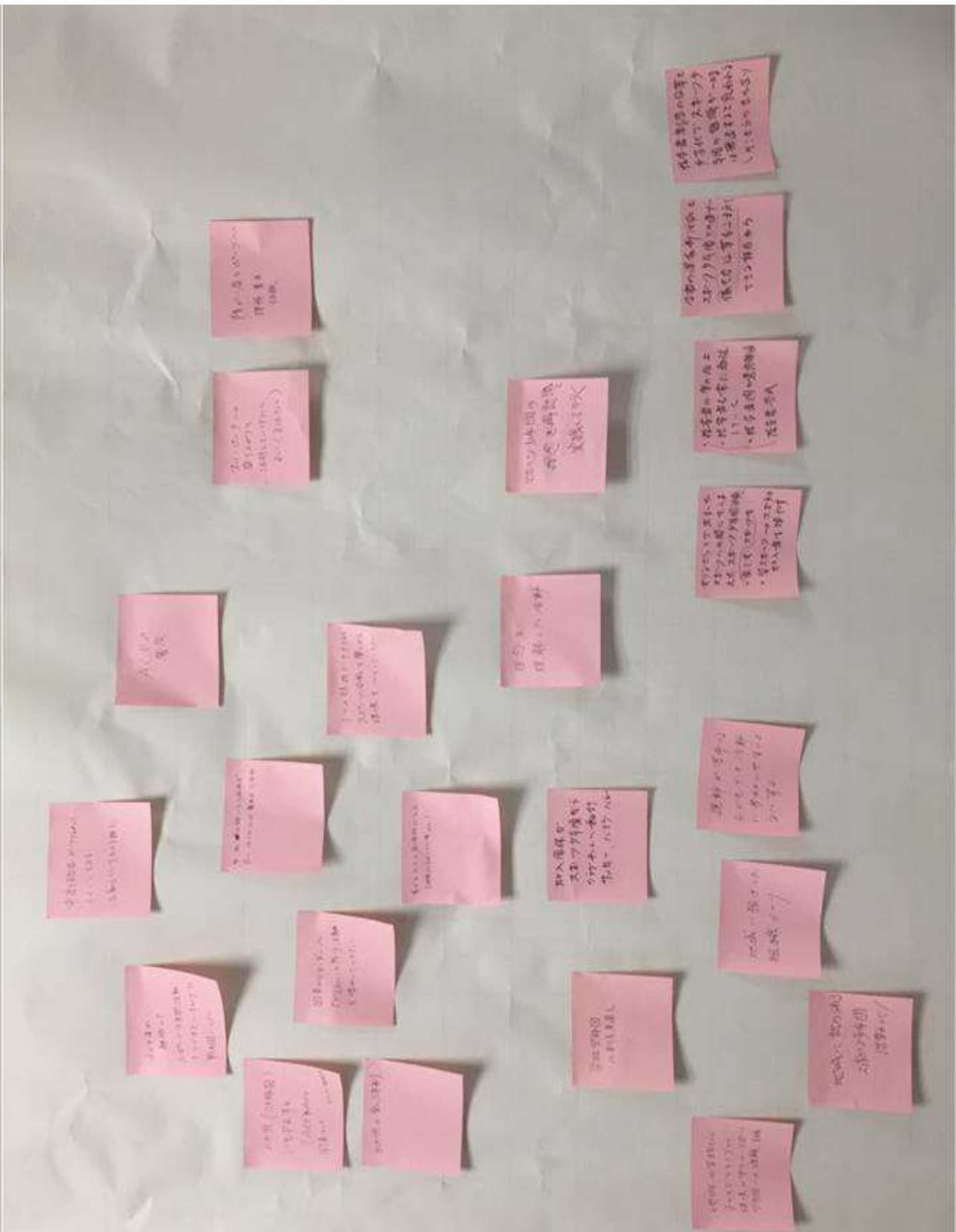
利用促進
利用促進
利用促進

利用促進
利用促進
利用促進

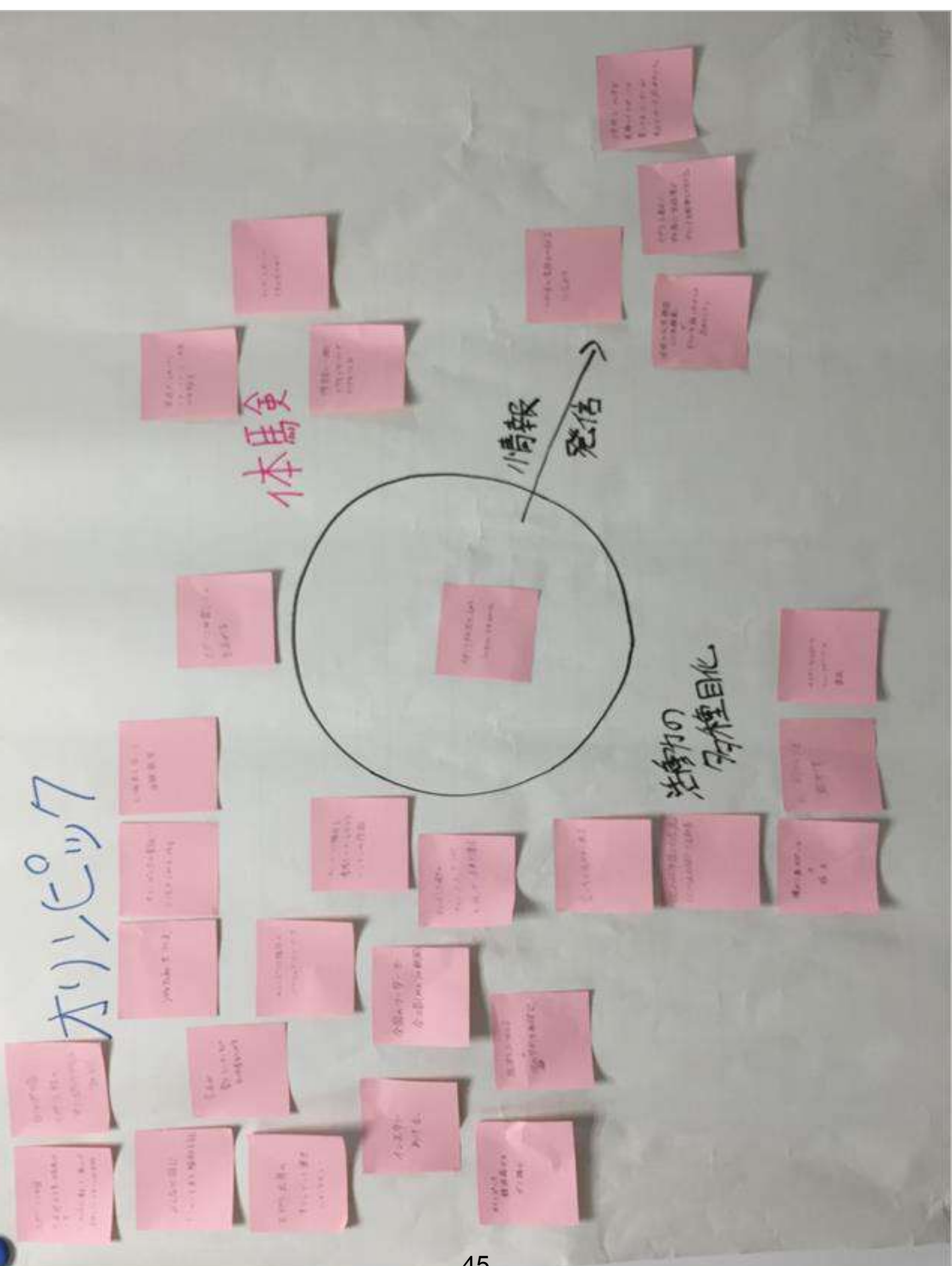
利用促進
利用促進
利用促進

PR活動

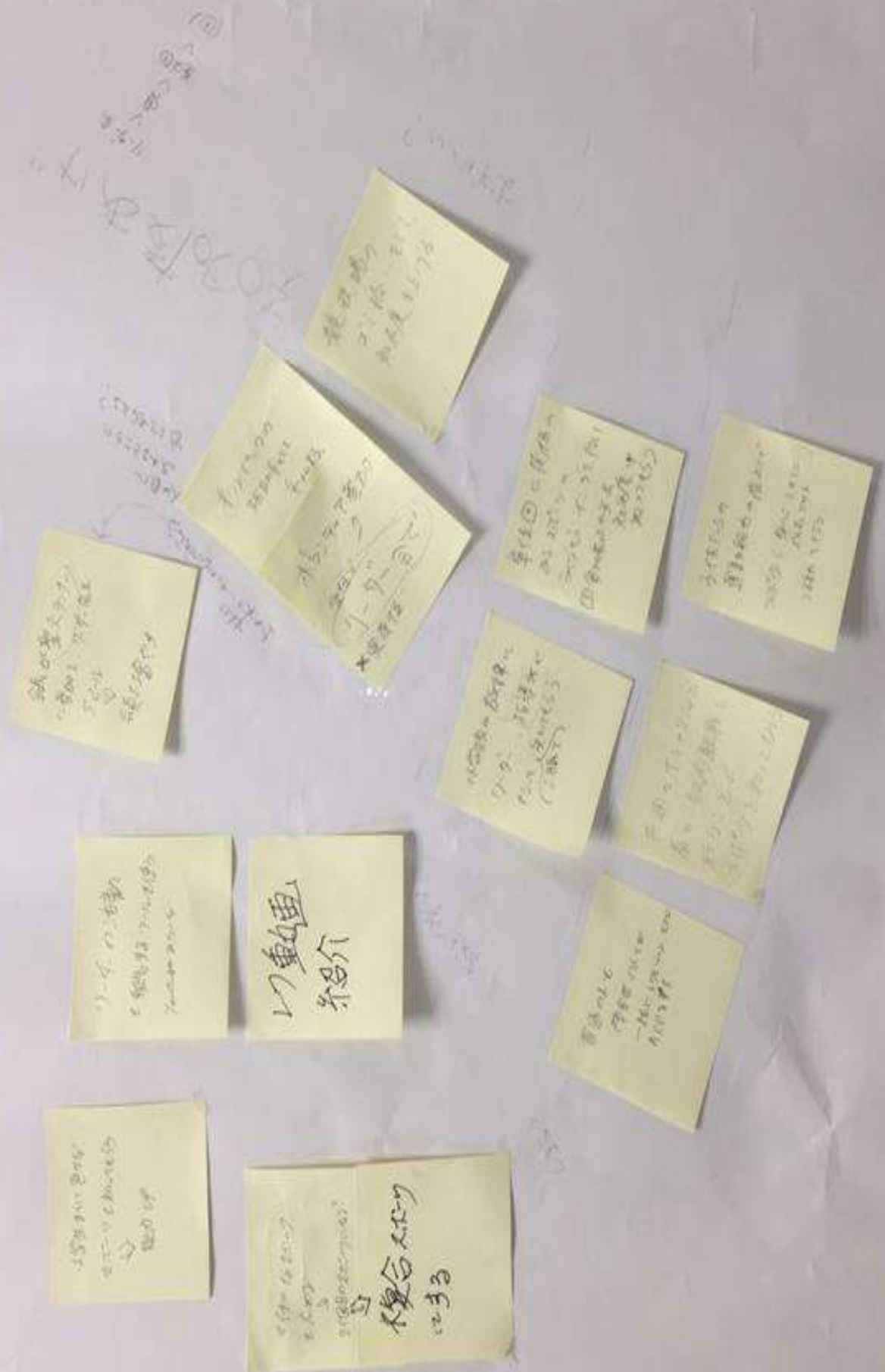
地域との連携



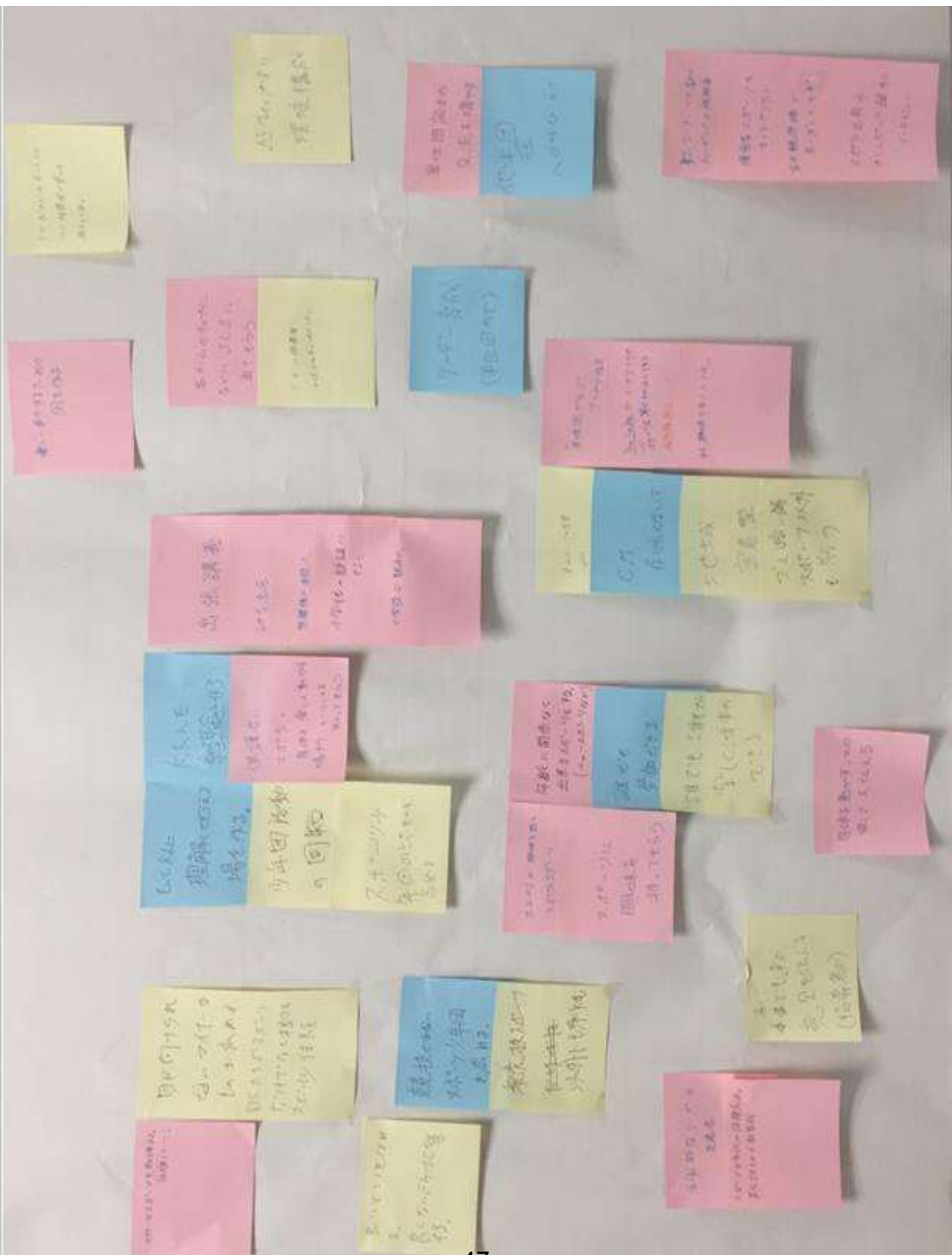
情報交換会（ワールドカフェ） リーダー1班



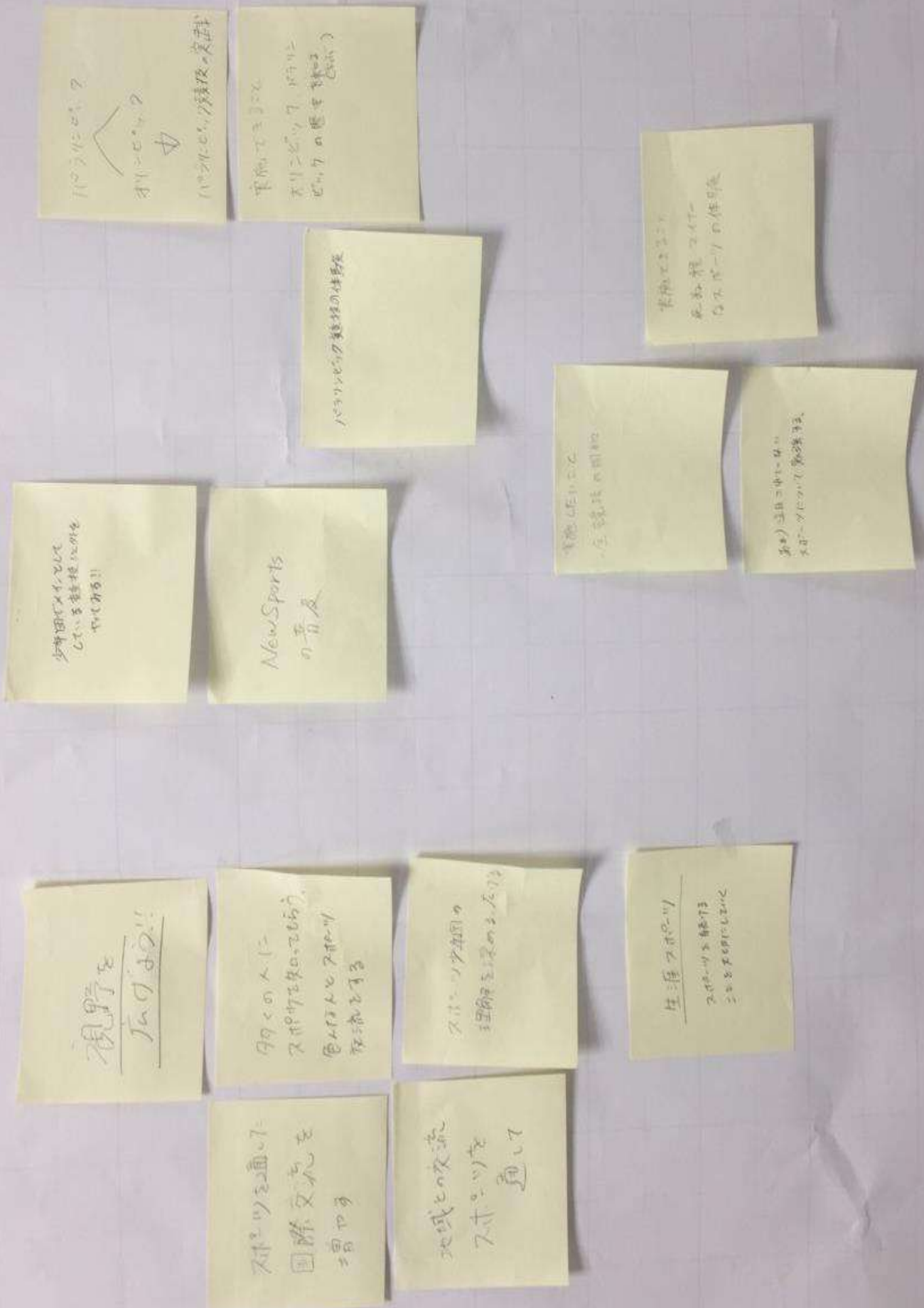
情報交換会（ワールドカフェ） リーダー2班



情報交換会（ワールドカフェ） リーダー3班



情報交換会（ワールドカフェ） リーダー4班



情報交換会（ワールドカフェ） リーダー6班

聖人ラント
をワグナーが

(1-タ-0730)

学校のプリント
1面2付

大会でレクリエーションなど時間をもち、やる。

SN/S9717
fare book
Twitter
4-29

LINEスタンプ
を作る

~~2/2~~ 2/2 ACP 5/5

入根、川、年國の
意知度向上
(日知度にみても、これは
又、その意知にみても)

・指導者向けの
資料にリージ
のページを
入れてもらっ

シズニシズニ
27-10 歌やう

單位 (Unit)

● 1997 - 1998 年度
国債の発行は増加せず。

1. 5-10 分钟

$$11-12-17 \text{ 星期日}$$
[illegible]

“郵遞” 103

宣華又於一

隣国と
スロバキア
の

[illegible]

ACPのじい
学校で
ACP実践

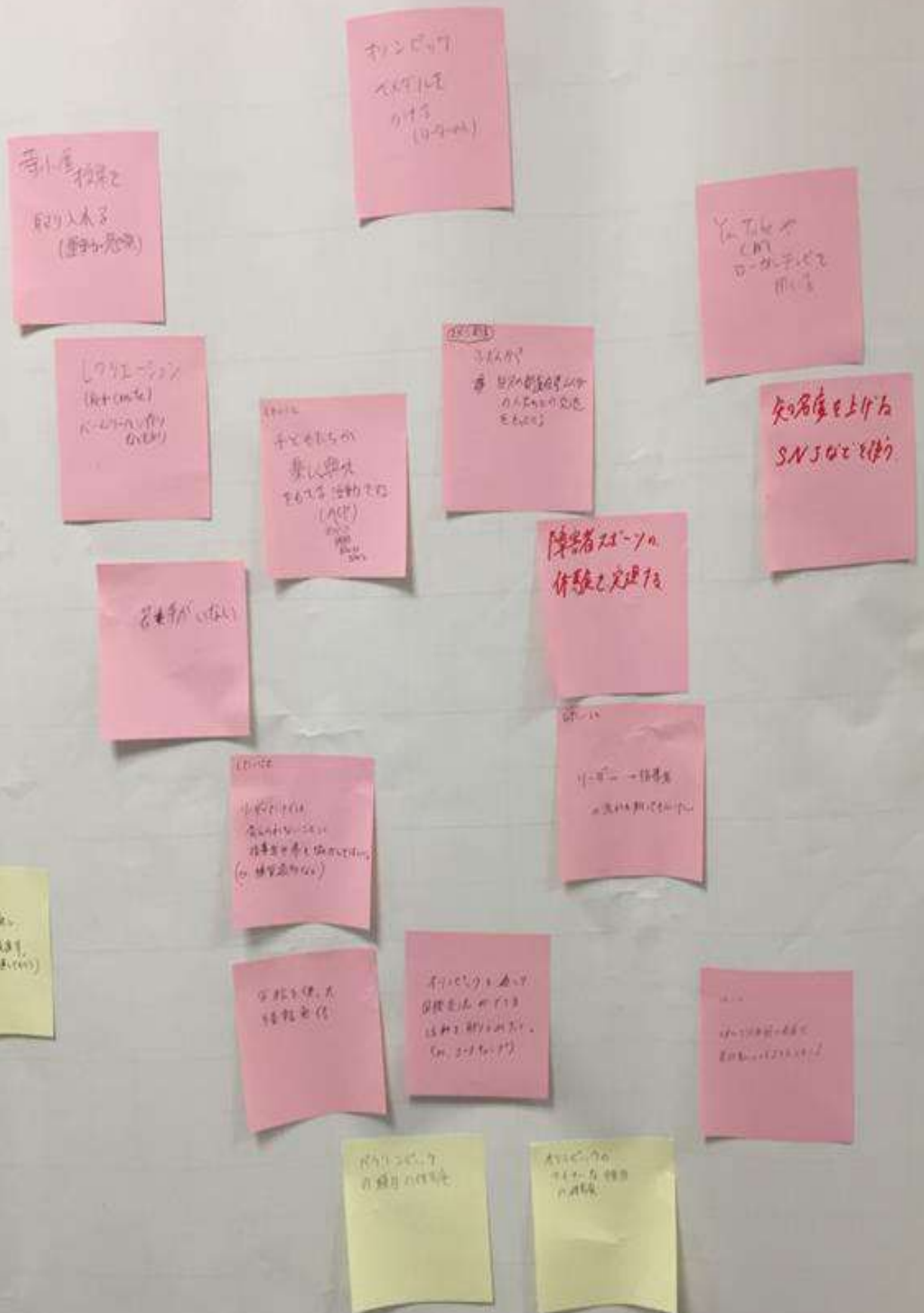
单位团
AC9

[illegible]

Ex. 2
90-11011

手にも通か
交感でさる
ユースチャン
と何う！

情報交換会（ワールドカフェ） リーダー7班



情報交換会（ワールドカフェ） リーダー8班

したと

交流

スボ-ツ

$$\frac{1}{1 - \frac{1}{2} + \frac{1}{4} - \frac{1}{8} + \frac{1}{16} - \frac{1}{32} + \frac{1}{64} - \frac{1}{128} + \frac{1}{256} - \frac{1}{512} + \frac{1}{1024} - \frac{1}{2048} + \frac{1}{4096} - \frac{1}{8192} + \frac{1}{16384} - \frac{1}{32768} + \frac{1}{65536} - \frac{1}{131072} + \frac{1}{262144} - \frac{1}{524288} + \frac{1}{1048576} - \frac{1}{2097152} + \frac{1}{4194304} - \frac{1}{8388608} + \frac{1}{16777216} - \frac{1}{33554432} + \frac{1}{67108864} - \frac{1}{134217728} + \frac{1}{268435456} - \frac{1}{536870912} + \frac{1}{1073741824} - \frac{1}{2147483648} + \frac{1}{4294967296} - \frac{1}{8589934592} + \frac{1}{17179869184} - \frac{1}{34359738368} + \frac{1}{68719476736} - \frac{1}{137438953472} + \frac{1}{274877906944} - \frac{1}{549755813888} + \frac{1}{1099511627776} - \frac{1}{2199023255552} + \frac{1}{4398046511104} - \frac{1}{8796093022208} + \frac{1}{17592186044416} - \frac{1}{35184372088832} + \frac{1}{70368744177664} - \frac{1}{140737488355328} + \frac{1}{281474976710656} - \frac{1}{562949953421312} + \frac{1}{1125899906842624} - \frac{1}{2251799813685248} + \frac{1}{4503599627370496} - \frac{1}{9007199254740992} + \frac{1}{18014398509481984} - \frac{1}{36028797018963968} + \frac{1}{72057594037927936} - \frac{1}{144115188075855872} + \frac{1}{288230376151711744} - \frac{1}{576460752303423488} + \frac{1}{1152921504606846976} - \frac{1}{2305843009213693952} + \frac{1}{4611686018427387904} - \frac{1}{9223372036854775808} + \frac{1}{18446744073709551616} - \frac{1}{36893488147419103232} + \frac{1}{73786976294838206464} - \frac{1}{147573952589676412928} + \frac{1}{295147905179352825856} - \frac{1}{590295810358705651712} + \frac{1}{1180591620717411303424} - \frac{1}{2361183241434822606848} + \frac{1}{4722366482869645213696} - \frac{1}{9444732965739290427392} + \frac{1}{18889465931478580854784} - \frac{1}{37778931862957161709568} + \frac{1}{75557863725914323419136} - \frac{1}{151115727451828646838272} + \frac{1}{302231454903657293676544} - \frac{1}{604462909807314587353088} + \frac{1}{1208925819614629174706176} - \frac{1}{2417851639229258349412352} + \frac{1}{4835703278458516698824704} - \frac{1}{9671406556917033397649408} + \frac{1}{19342813113834066795298816} - \frac{1}{38685626227668133590597632} + \frac{1}{77371252455336267181195264} - \frac{1}{154742504910672534362390528} + \frac{1}{309485009821345068724781056} - \frac{1}{618970019642690137449562112} + \frac{1}{1237940039285380274899124224} - \frac{1}{2475880078570760549798248448} + \frac{1}{4951760157141521099596496896} - \frac{1}{9903520314283042199192993792} + \frac{1}{19807040628566084398385987584} - \frac{1}{39614081257132168796771975168} + \frac{1}{79228162514264337593543950336} - \frac{1}{158456325028528675187087900672} + \frac{1}{316912650057057350374175801344} - \frac{1}{633825300114114700748351602688} + \frac{1}{1267650600228229401496703205376} - \frac{1}{2535301200456458802993406410752} + \frac{1}{5070602400912917605986812821504} - \frac{1}{10141204801825835211973625643008} + \frac{1}{20282409603651670423947251286016} - \frac{1}{40564819207303340847894502572032} + \frac{1}{81129638414606681695789005144064} - \frac{1}{162259276829213363391578010288128} + \frac{1}{324518553658426726783156020576256} - \frac{1}{649037107316853453566312041152512} + \frac{1}{1298074214633706907132624082305024} - \frac{1}{2596148429267413814265248164610048} + \frac{1}{5192296858534827628530496329220096} - \frac{1}{10384593717069655257060992658440192} + \frac{1}{20769187434139310514121985316880384} - \frac{1}{41538374868278621028243970633760768} + \frac{1}{83076749736557242056487941267521536} - \frac{1}{166153499473114484112975882535043072} + \frac{1}{332306998946228968225951765070086144} - \frac{1}{664613997892457936451903530140172288} + \frac{1}{1329227995784915872903807060280344576} - \frac{1}{2658455991569831745807614120560689152} + \frac{1}{5316911983139663491615228241121378304} - \frac{1}{10633823966279326983230456482242756608} + \frac{1}{21267647932558653966460912964485513216} - \frac{1}{42535295865117307932921825928971026432} + \frac{1}{85070591730234615865843651857942052864} - \frac{1}{170141183460469231731687303715884105728} + \frac{1}{340282366920938463463374607431768211456} - \frac{1}{680564733841876926926749214863536422912} + \frac{1}{1361129467683753853853498429727072845824} - \frac{1}{2722258935367507707706996859454145691648} + \frac{1}{5444517870735015415413993718908291383296} - \frac{1}{10889035741470030830827987437816582766592} + \frac{1}{21778071482940061661655974875633165533184} - \frac{1}{43556142965880123323311949751266331066368} + \frac{1}{87112285931760246646623899502532662132736} - \frac{1}{174224571863520493293247799005065324265472} + \frac{1}{348449143727040986586495598010130648530944} - \frac{1}{696898287454081973172991196020261297061888} + \frac{1}{1393796574908163946345982392040522594123776} - \frac{1}{2787593149816327892691964784081045188247552} + \frac{1}{5575186$$

オリゼック、障がい者

講師講評

- ・辻川 比呂斗

（順天堂大学／リーダー養成ワーキンググループ班員・スポーツ少年団運動適性テスト検討ワーキンググループ班員）

- ・祝原 豊

（静岡大学／リーダー養成ワーキンググループ班員）

- ・吉田繁敬

（アイ・プラス株式会社／リーダー養成ワーキンググループ班長・幼児期からのアクティブ・チャイルド・プログラム普及ワーキンググループ班員）

○辻川 比呂斗 先生

(順天堂大学／リーダー養成ワーキンググループ班員、スポーツ少年団運動適性テスト
検討ワーキンググループ班員)

皆さんお疲れさまでした。情報提供・講義では、東京オリンピックに向けてこれからのスポーツ少年団やリーダーの在り方についてお話があり、今一度スポーツ少年団について確認することができたように思います。

その後の全体発表会においては、昨年度に引き続き、ポスター報告形式での発表を行ったり、情報交換会においてはワールドカフェ方式を採用するなど、様々な取り組みを行って皆さんの議論が活性化するように工夫をいたしました。

最後のブロック別連絡会においても、意図的に同じ空間で連絡会を実施することによって、各ブロックにおいて今までとは違った話し合いの雰囲気が生まれ、その中で議論することができたと思います。議論の結果や情報をそれぞれの地域や各都道府県に持ち帰っていただき、リーダーや母集団の方々の意見を拾い上げることができるということも、このリーダー連絡会の一つの意味合いであると考えます。

また、読まれた方もいらっしゃると思いますが、毎年リーダー連絡会の報告書が作成されており、各ブロックのポスターや本連絡会での議論の内容が掲載されています。各都道府県にも送付されていると思いますので、ぜひ確認してもらえればと思います。

本日は一日ありがとうございました。

○祝原 豊 先生

(静岡大学／リーダー養成ワーキンググループ班員)

皆さんお疲れさまでした。リーダー連絡会に毎年参加する中で、今回は特に話し合の質や雰囲気が変わっていたと感じました。もちろんファシリテーション能力が向上しているという点もありますが、それ以前に、他者の話を引き出す力や意見を集約する雰囲気が土台として根付いているからこそ、今回のリーダー連絡会があったのではないかと考えます。

本日一日のプログラムにおいて、スポーツ少年団の現状や課題といった話がありました。どちらかというとネガティブな話の中で、それらの手立て・対策を考えなければならないといった切迫感のようなものがありましたが、その中で皆さんが創意工夫されていたように感じました。一方で、オリンピックも含めて、これらを良いきっかけとして活動を考え直してみたり、反対に今までのスポーツ少年団の強みをより活用しようといった発想もいくつも見られたので、とても良かったと思います。

このような雰囲気の中で、次年度のブロック別研究大会やこのリーダー連絡会がより充実したものとなるのではないかと私自身も確信を持てたところがあります。来年のリーダー連絡会も楽しみにしています。

お疲れさまでした。

○吉田 繁敬 先生

(アイ・プラス株式会社／リーダー養成ワーキンググループ班長、幼児期からのアクティブ・チャイルド・プログラム普及ワーキンググループ班員)

皆さんお疲れさまでした。講義では、アクティブ・チャイルド・プログラム（ACP）は運動習慣のない子どもたちへの仕掛けであり、大人が手間をかけて行うことによって、子どもは楽しく遊ぶことを通して、心と体の発育・発達が促進されるというお話をしました。そして、特に子どもの発達に対しては、ACP を通してスポーツ少年団が貢献できるのではないかというお話をしました。

本リーダー連絡会においては、昨年度から少し実施形態を変更して開催していますが、それは私たちリーダー養成ワーキンググループからの仕掛けの一つです。どうしたら皆さんが、この1日という短い時間の中で2日間実施した時と同じような成果を持って帰ることができるのかを検討したときに、時間がないから「これはできない」、「あれは無理だ」という考え方ではなく、「1日での実施になったけれども、どうしたら2日分の内容を提供できるか」ということを工夫しました。そこで、全体発表会をポスター発表形式で実施したり、情報交換会をワールドカフェ方式で実施したりしました。この方法がベストであるとは言えませんが、現在考えられる最良の方法であると考えています。また、昨年度のリーダー連絡会参加者の皆さんからも様々なご意見をいただき、全体発表会の時間配分を変更したりしました。プログラムの内容や時間配分については、今後さらにより良いものにするためにも、我々が責任をもって修正をしていかなければならないと考えております。

最後のブロック別連絡会の際、皆さんが会場に來られた時、すでにテーブルが配置されており、スクリーンには座席図も表示してあったと思います。会場の設定については、テーブルの位置や方向、スペースを考えたり、余分なテーブルが出ないようにしたり配慮しました。これも我々の仕掛けの一つであり、場のスキルと言って、ただ同じ会場で同じ話をするだけではなく、どういう環境で議論をするかということがとても重要であることを考慮した上での仕掛けです。こういった仕掛けは、議論の場のみならず指導の場でも活用できると考えます。皆さんも各都道府県や単位団に戻った際、場の設定にも配慮し、より良いものを引き出せるように、この辺りも学んで帰っていただければと思います。

皆さんが各都道府県に戻られた際、本連絡会ではリーダー会の情報交換のみならず、このようなスキルも身につけられたということをアウトプットしていただき、全国各地から参加する価値のある会であるということを伝えていただければと思っております。本連絡会が今後もこのような形で続くことを願っております。

本日はありがとうございました。お疲れさまでした。

参加者アンケート結果

○趣旨

本アンケートは、令和元年度全国スポーツ少年団リーダー連絡会の活動効果を調査するとともに、次年度以降よりよい活動を展開するために、課題・改善点を把握することを目的として、本連絡会参加者を対象に実施したものである。

○調査内容

下記項目について、参加した感想・今後の要望等を回答

1. 情報提供・講義について
2. 全体発表会について
3. 情報交換会について
4. ブロック別連絡会について
5. その他連絡会全体に関してご意見・ご感想

令和元年度全国スポーツ少年団リーダー連絡会 参加者アンケート集計結果

各項目の集計に当たっては、有効回答のみを集計したため、項目によって回答数にばらつきが生じています。

＜参加者＞

リーダー	42名	※うちオブザーバー2名
育成担当指導者	45名	※うちオブザーバー3名

1. 情報提供・講義 （当てはまるもの1つに○を付けてください。）

(1)内容	割合	合計	リーダー	育成担当指導者
①良かった	72.7%	56	31	25
②どちらかと言えば良かった	22.1%	17	6	11
③どちらともいえない	5.2%	4	1	3
④どちらかと言えば悪かった	0.0%	0	0	0
⑤悪かった	0.0%	0	0	0
合計	100.0%	77	38	39

(2)時間配分	割合	合計	リーダー	育成担当指導者
①長くしてほしい	10.5%	8	4	4
②今のままで良い	84.2%	64	31	33
③短くしてほしい	5.3%	4	3	1
合計	100.0%	76	38	38

2. 全体発表会 （当てはまるもの1つに○を付けてください。）

(1)内容	割合	合計	リーダー	育成担当指導者
①良かった	46.1%	35	19	16
②どちらかと言えば良かった	38.2%	29	11	18
③どちらともいえない	15.8%	12	7	5
④どちらかと言えば悪かった	0.0%	0	0	0
⑤悪かった	0.0%	0	0	0
合計	100.0%	76	37	39

(2)時間配分	割合	合計	リーダー	育成担当指導者
①長くしてほしい	15.1%	11	8	3
②今のままで良い	65.8%	48	20	28
③短くしてほしい	19.2%	14	9	5
合計	100.0%	73	37	36

3. 情報交換会 （当てはまるもの1つに○を付けてください。）

(1)内容	割合	合計	リーダー	育成担当指導者
①良かった	62.3%	48	32	16
②どちらかと言えば良かった	26.0%	20	4	16
③どちらともいえない	10.4%	8	2	6
④どちらかと言えば悪かった	1.3%	1	0	1
⑤悪かった	0.0%	0	0	0
合計	100.0%	77	38	39

(2)時間配分	割合	合計	リーダー	育成担当指導者
①長くしてほしい	18.9%	14	12	2
②今のままで良い	71.6%	53	21	32
③短くしてほしい	9.5%	7	4	3
合計	100.0%	74	37	37

4. ブロック連絡会 （当てはまるもの1つに○を付けてください。）

(1)内容	割合	合計	リーダー	育成担当指導者
①良かった	74.3%	55	30	25
②どちらかと言えば良かった	14.9%	11	4	7
③どちらともいえない	8.1%	6	3	3
④どちらかと言えば悪かった	2.7%	2	1	1
⑤悪かった	0.0%	0	0	0
合計	100.0%	74	38	36

(2)時間配分	割合	合計	リーダー	育成担当指導者
①長くしてほしい	20.8%	15	9	6
②今のままで良い	76.4%	55	28	27
③短くしてほしい	2.8%	2	1	1
合計	100.0%	72	38	34

5. その他連絡会全体に関してご意見・ご感想をお聞かせください。(自由記述)

<リーダー>

情報交換会の時、グループを固定しないで色々な人と意見交換をできたのが良かった。
全体発表会のパネルをたどってまわる20分間は、事前に配られているものと同じなのでいいと思った。
今回、急遽参加しましたが、とても良い経験を毎回させていただき、とても嬉しいです。何回参加しても、楽しく、充実した会になっていました。このような会をずっとこれからのリーダーや指導者育成にあててほしいです。
ブロック外と情報を交換できる場がここだけなので交換できてよかったです。
情報提供・講義が、とても良かったです。吉田先生のおっしゃっていたワールドカフェ方式の話し合いや表に主張、裏に理由をかくといった話しやすい工夫は、会議でも活用することができるため、ぜひ実践してみたいと思いました。ありがとうございました。
初めての参加でしたが、各リーダー会との情報交換等ができて良い時間でした。
全体発表会について、時間は今のままで良いが、昨年のように、随時発表し、そこに質問に行くタイプ(それが前後半に分かれててもかまわない。)の方が質問しやすかった。また、発表せずポスターを見るだけの時間はレジュメとして配布されており、また事前にHPに上がっているのを見れるので、時間としてもったいないような気がした。
全体発表会の資料を紙でほしかった(事前に)。情報交換会は有意義な時間になった。実現できそうなものはやってみよう。
全体発表会の2回目の発表がいつはじまったのかがわかりにくかったのでアラームなどで時間のくぎりがはっきりするといいかと思います。講義のお話がとてもたのしかったです。ありがとうございました。
全体発表会で各ブロックに資料を見るための時間が長かったように感じました。発表の時間があまり区切られていなかったのも、発表の途中から聞くことになるブロックがあったので、できればグループごとに時間を決めて、ローテーションのような形が良かったです。
全体発表会では1つのブロックの説明を聞くと次のブロックに行っても説明が終わり質問に入ってしまうので、もっと多くの説明を聞きたいと思いました。
全体発表会の見る時間で、手元の資料を見た方が質問を考えやすいため、あまり時間をとらなくてもいいと思いました。
ブロック別連絡会の机の配置が初めて見る形だったので参考になりました。
ポスター発表の見る時間が少し長く感じたが仕組みは素晴らしいと感じました。
各都道府県での情報がとても新鮮でとくにワールド・カフェでの話し合いが楽しく学べるが多かった。
様々な都道府県からのリーダーさんたちと交流できてよかったです。ネガティブをポジティブに変える術をいくつか持ちかえられるのではと思います。
初めての参加でしたが、貴重な体験をすることができました。これから先、リーダーの在り方、スポ少のあり方を考える機会が増すと思うので、今日の連絡会で得られたものを活かしたいと思いました。
フォーラム会場への移動が若干辛い
ACPなど実際に体を動かす時間があたらいいなと思います。
全体発表会に関しては、人が多く、声が聞こえづらかった。また、多く人が集まるため資料や写真などが見えにくかった。
吉田先生の講義は聞いていてとても興味深く、楽しかったです。動画の件もたいへん歯がゆく感じていたので、早速使用させていただくことになりそうです。
全体発表会はまだ少し県ごとの聞く時間を長くして実技の指導の時間が以前のように欲しい。
全体発表会で時間配分の問題なのかテーブルの周りで聞く人がある反面休憩時間になってしまっていた人もいました。次回への改善願います。

＜育成担当指導者＞
全体発表会で、各ブロックの発表を聞くことができ、質疑をしやすい環境での発表で内容を深く理解することができた。ブロック別連絡会にて、ブロック研究会の内容を話し合えよかった。
全体発表会の形を変えた方が良い。前々回の形に戻した方が、良い発表会になると思います。
ポスターをA1で印刷できますか？
1泊2日の日程でやる事業なので、2日目もディスカッション等にあてた方がよいと思います。(ジュニアフォーラムに参加するよりも)ブロック別連絡会の話し合い時には、やはり個室の方が参加者の意見が良く聞こえていいかな？と思います。(回りの声などにより、発表者の声が聞きとりにくかった。)
全体発表では、発表を聞けないブロックがあるなど、また、見る時間も質問なしだとあつという間に見終わってしまったので、さらに工夫があるといいなと思います。情報交換会では、良い話し合いができました。全国リーダー連絡会が変更になって2年目ですが、もう少し時間があるといいなと感じました。
情報交換会のテーマ、入り口が難しく感じました。ありがとうございました。
質問したいブロックが前半に重複したため、片一方のブロックには話を聞けなかった。質問する立場からは、前半・後半のグループ分けで発表テーブルが閉じてしまった点は良くなかった。
一昨年→昨年→今年と様々な工夫(しかけ)により、時間は短いながらも充実した内容になっていると思います！今回出た意見を1つでも実現したり、活動に取り入れたりできるよう行動していきたいです。
宿泊で個室が取れなかったのは仕方の無いことですが、ブロック毎にまとめておけば動きやすいのではと思いました。僕は関東ですが、相部屋の方は中国ブロックでした。
情報提供・講義内容については、知っている人が多いと思うのでQ&Aがあるとより良かったです。全体発表会について、先生が全国をまわる中で知り得た情報を共有させていただけるとよりありがたかったです。情報提供・全体発表会については、情報誌等で掲載されている内容が多かったが、改めて聞くことが出来て良かった。情報交換会について、情報共有のみで終わってしまうのはもったいなく感じました。2020オリパラを機に現実的に方策を見出せるような形になっていくとより良いと感じています(例えば、メディアを入れる、教育関係者に視察してもらうetc...)。報告書について参加者全員が目に出てくるより良い方法を考えていただけると助かります。現在、県庁でオリパラ局に勤めており、スポ少の子供たちが聖火リレー、ボランティア、イベントでの参加etc...について声を大にして上にかけあいましたが、やはり社会的知名度?が低いのかスポ少のリーダー活用について賛同を得られない機会が多く淋しく感じました。私自身も努力しますが、日本体育協会として?もう少し各都県への発信?声かけ?等を行っていただけると幸いです。
全体発表会は、あらかじめ内容を確認して参加することとし、すぐに発表に移ってもよかったのではないかなと思う。時間が長く感じた。もっといろいろ他県の活動の情報を知りたかった。全体を通して、せっかく集まったのであれば、他県との交流(情報交換)がしてみたい。初めて参加したので、その様に感じました。
全体発表会では20分(資料に目を通す)と20分(発表、質問)という風に分けていたが最初の20分は必要ないと感じた。
ACPを通して、からだを動かす楽しさをつたえる。私は、子供たちが出来る最初の指導者なのだから幼児が、からだを動かす意義や年齢による発達の特徴を理解して指導していきたい。
情報提供・講義について、保護者向けならすごく良いと思う。ここ2-3年、リーダー、指導者で行った話し合いが今までのくり返しで中心で(確かにリーダーさんから出た発表は昨年と全く同じでした。)、進展する点(無いとは言わないが)少ない。ただ会を行っているだけに終わっていませんか？と周囲の皆さんも意見していました。リーダー指導者からの意見をJSPOがどう思っているのか？どう動いてくれているのか？
全体発表会において、より聞きやすい配慮をしていただければと思いました。今回の流れでは特定のブロックの発表しか聞けず、残りのブロックに関しては、一方的な質問をするだけになってしまったように感じました。
ワーキンググループでどのような事が課題としてどのような事が話し合われて制度化されようとしているのかが全く伝わらない。又、全国より、育成担当指導者を来ているのであれば、具体的な検討事項や、課題の洗い出しの時間を取れる方が意義があるのではないのでしょうか。リーダーの行く末ビジョンを具現化していく必要があると思います。
スポーツフォーラムと同会場であるとうれしいです。
もう少し時間のゆとりがあれば
情報交換会で得られたポストイト等の内容は日頃活動している現場の声、思いなので今後の活動へ多少くみ上げてほしい
初めて参加しました。5年間事務局をしていて初めてわかったことがかなりありました。ありがとうございました。
ワールドカフェとても楽しかったです。たくさんの意見を聞くことができて良い体験となりました。
全体発表会では、話が聞けない所があったのではないかなと思いました。
情報交換会の時の発表方法を時間のメリハリがあつたらいいなと思いました。



令和元年度全国スポーツ少年団リーダー連絡会報告書

編集

公益財団法人日本スポーツ協会

日本スポーツ少年団

東京都新宿区霞ヶ丘 4-2 JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE

電話:03-6910-5814

FAX:03-6910-5820